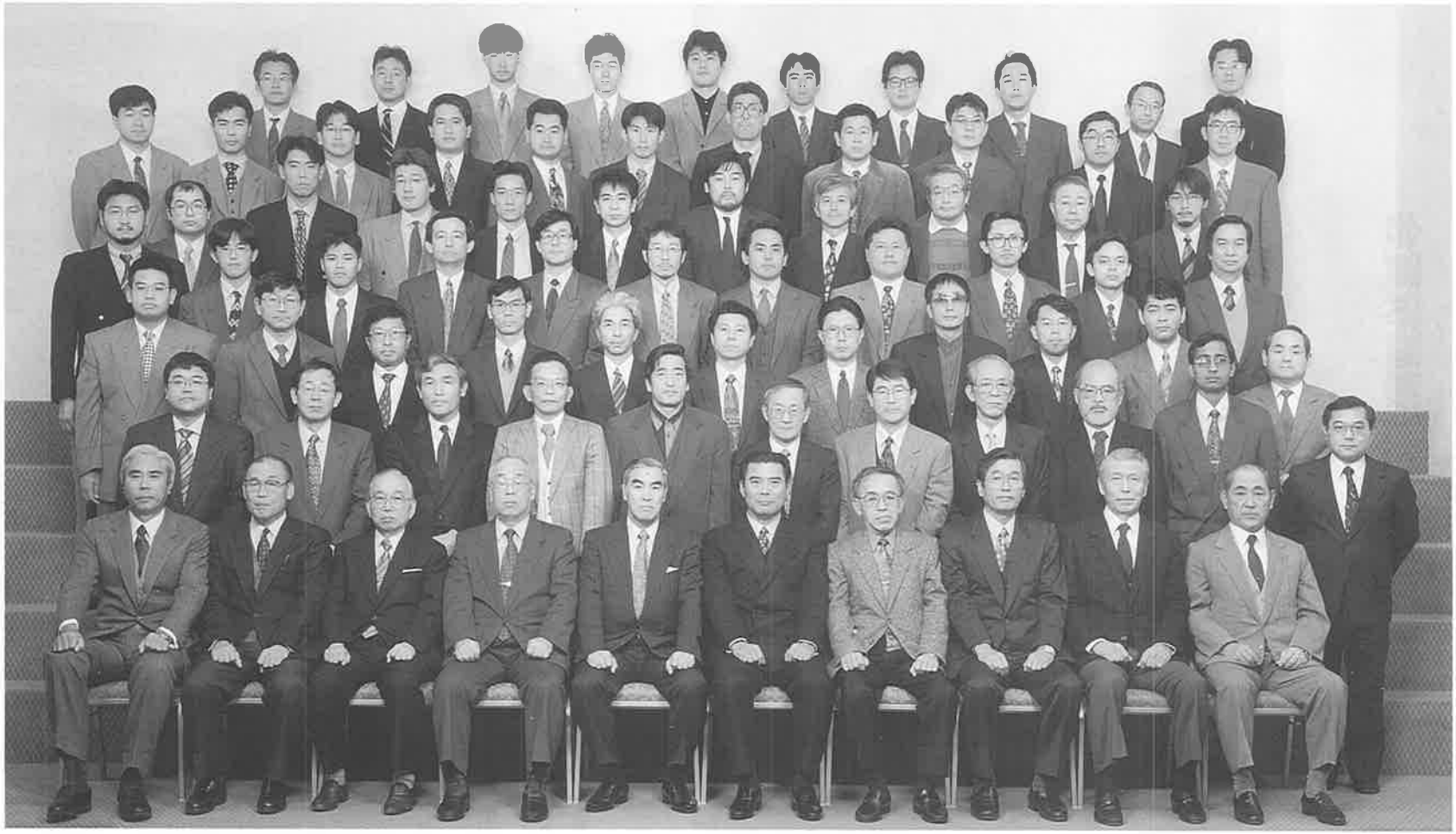
宮崎医大整形外科

同門会誌

第　9　号

平成9年12月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



宮崎医科大学整形外科同門会　平成８年12月７日　於 宮崎観光ホテル

田島直也教授御還暦祝賀会

宮崎医科大学整形外科教授田島直也先生御還暦記念　平成9年10月10日　於　宮崎観光ホテル

宮崎医科大学整形外科学教室新入教室員歓迎会　平成９年５月31日　於　宮崎観光ホテル

目　　次

巻　頭　言……教授　田島　直也…1
ご　挨　拶……会長　河野　雅行…3
田島教授還暦祝賀会
　還暦を迎えて……教授　田島　直也…5
　祝賀会挨拶……会長　河野　雅行…7
　パーティー報告……川越　正一…9
会員寄稿
　随筆
　　人間尊重……木村　千佴…11
　　山小屋……河野　雅行…12
　　現代スズメ蜂考……山口　一郎…14
　　トライアスロンと食事……押川紘一郎…16
　　今年を振り返る　おもしろい一年　最悪なこの一年　何事も巧くいくほうがいい　他……佐藤　信博…18
　　整形外科とデイケア—診療所にデイケアを併設して—……岡田　光司…20
　開業
　　近況報告……平川　俊一…21
　　開業—生みの苦しみと作る喜び……福田　健二…22
　新入賛助会員紹介
　　私のストレス解消法……押領司光雄…23
　　自己紹介……佐井　伸男…24
　　この頃……深野木正人…25
大学便り
　野球
　　決勝戦までの道のり（キャプテンとしての立場から）……松元　征徳…27
　　２年連続全国大会出場決定！（１軍）……矢野　浩明…29
　　祝　２軍３連覇……松岡　知己…31
　医局長雑感
　　平成９年を振り返って……川越　正一…33
　留学報告
　　スイス研修……帖佐　悦男…34

受賞報告

優秀演題賞を受賞して……帖佐　悦男…35
AAOSに参加して……渡辺　信二…36
医局旅行について……後藤　啓輔…38

大学診療部門紹介

「脊椎班」の現況……久保紳一郎…39
下肢研修医の一週間……江夏　　剛…40
上肢班について……川越　正一…41
『側彎症外来』の現況について……作　　良彦…42
当院スポーツ外来の現状と展望……園田　典生…43
新入医局員紹介……44
教室同門の研究業績……47
編集後記……押川紘一郎…76

巻　　頭　　言

田　島　直　也

今年は宮崎医科大学にとって、第49回西日本医科学生体育大会の主管大学であった。私も西医体連盟の理事（長）として学生諸君、事務局の人達と大会運営に携わってきた。我々の学生時代の頃と異なり、西医体も参加44大学、参加人数約16,000人と規模もずっと大きくなり、会場確保、資金面といろいろと問題があったが、どうにか無事終了することができた。若い学生諸君と仕事をするのは私にとって貴重な経験であった。約2年間にわたり企画、運営に当たってきた学生諸君は想像以上に、計画を立案し、実行に移していくのは頼もしくもあった。おまけに大会は宮崎医大の総合優勝で幕を閉じることができた。

さて、医局、教室を振り返ってみると、如何に若い力にやる気を起こさせ、若い芽を伸ばす環境作りをするかは重要なことである。しかし、出来るだけの環境作りをしても思ったように実績が上がらない。これは私自身おおいに反省して、考え直さねばならない問題である。

現代の医学の進歩は一朝一夕に出来上がったものではない。先人達のたゆまぬ努力と経験から一歩一歩進歩発展してきたものである。

当教室では研究（リサーチ）希望者には研究の機会を作るようにしている。将来ずっと研究生活を送らないにしても医学の発達の1部門、1コマに貢献したことでも有意義である。また、現実的には国公立病院クラスの部長、医長には学位を義務づけているところもある。大学人としては学位は当然必要である。しかし、希望者は意外に少ないので残念である。大学の使命の一つは、研究である。これは大学でしか出来ない面もあり、originalityを求めて行う必要がある。単に手術の追試だけでは大学以外でも出来ることである。

私も今年で還暦を迎えることになった。これは人生の一つのケジメかもしれない。しかし、ＮＨＫ大河ドラマの毛利元就も59才から大内（陶）尼子を討ち、中国地方の覇者になっている。私もあと5年余、創造と継続を旗印に率先垂範して

頑張っていかねばと思っている。来年は日本臨床バイオメカニクス学会、日本腰痛研究会、再来年は西日本整形災害外科学会と主催の予定であり、また、野球大会も全国制覇迄あと一歩、—この一歩が最重要—である。同門の先生方、どうぞ教室に対するこれまで以上の御支援御協力をお願いします。

ご　　挨　　拶

河　野　雅　行

本年も様々なことがありましたが、あいも変わらず国内・国際共に社会的には毎日面白くないニュースが飛び込んでまいります。医療を取り巻く環境も大変厳しい状況でなんとか良い方向に出口を見付ける努力をしようとしましても、医療という特殊性からか様々な規制があり、何も出来ない状態です。一番良い解決策は医者を廃業することではないかとも受け取られる社会情勢です。これも試練であると黙って耐える以外には良い手段は無いものでしょうか？何とか患者にも医者にも将来の夢と希望が持てるような社会になってほしいものです。

一方私達の同門会活動は割合落ち着いた年でした。

６月に役員改選がありましたが、基本的には旧役員に若い先生方を加えまして、組織を一部改編し、将来の新たなる諸問題に取り組んで行くことになりました。組織の基本的な部分を簡単に変換するのはあまり勧められることではありませんが、流動的な社会に対応する為には組織自体も多少の脱皮・変革は必要なことかもしれません。役員一同新たな気持ちで頑張りますので、宜しくお願いいたします。

今年も大変元気で優秀な先生方に入会していただきました。会をあげて歓迎いたします。新入局６名、賛助会員３名です。新規御入会の先生方におかれましては、同門会活動への御協力を宜しくお願いいたします。

本年は永年の念願でありました野球全国大会に準優勝できまして誠に喜ばしいことでした。選手先生方の早朝練習を始めとしまして様々な特訓を経てさらに必ず優勝するとの堅い決意の賜と感服いたしました。８月に行なわれました今年度の西日本大会でも準優勝で来年度の全国大会への出場資格を得たと聞いております。

教授作詞の応援歌、さらに応援旗もすばらしいものが出来ましたので、次回も優秀な成績のもとに歌と旗の出番を期待しております。

田島教授が今年還暦を迎えられました。おめでとうございます。

先日祝賀会を開催しましたところ多数の来賓並びに会員の先生方に御参加いただきまして盛大に執り行うことができました。

教授にはますます御壮健で御活躍をお願いいたします。

田島教授御還暦祝賀会

還　暦　を　迎　え　て

田　島　直　也

この９月30日、私もついに還暦を迎えた。ついにというのは、私にとってはまだまだ先の事、人の事と思っていたのについに来たかという感じである。高校の同級生で文系に言った友人から生年月日が60才になったら定年になったとの挨拶状をもらったりすると、私は大学の定年まで後５年半あるのは大変ありがたく幸せである。

誕生日より10日後の10月10日、教室・同門の皆様から盛大に還暦のお祝をして頂いた。

私が長崎大学を卒業したのが昭和37年、宮崎に赴任したのが昭和54年、医師として約34年、ちょうど半分は長崎で、半分は宮崎で過ごした事になる。

古来中国では、人生を４つの季節・神獣にたとえている。そこでは、60代は実りの秋、色は白、白秋で虎にたとえられる。白虎は泰然として、今まで蓄えたすべてのものを使い自分の世界を作り上げるとされている。私も大学人として残された期間を自分の集大成をなすべく頑張れねばと思っている。

教室、同門の先生方、還暦のお祝　本当に有り難うございました。

御祝辞
と
花束贈呈

濱田教授より

鬼塚教授より

中島元婦長より

岩見元婦長より

渡辺雄先生より

祝　賀　会　挨　拶

河　野　雅　行

田島教授　この度は御元気で還暦を迎えられましておめでとうございます。

祝賀会を開催するにあたりまして皆様方に一言お礼を申し上げます。

教授は固辞されたのですが、日頃お世話になっております私達でお祝いをしようと企画しまして、不肖私達が発起人という立場でご案内しましたところ、多数の方々に御賛同いただきました。有難うございました。

ある人が言われましたが、昔の人に比べまして現代人の年の取り方は８割掛けだそうです。そういえば私達が子供時分の60才は大分お年寄りに見えたような印象がありました。それに比べまして、最近は還暦後でも大変お元気な方が多いようです。私がその年代に近づいたせいかもしれませんが、最近のお年寄りは大変若く見えます。老化に対する考え方を見直す必要があるかもしれません。

特に田島教授をお見掛けしておりますと、ともすると私どもよりもお若く見えられます。気持ちを何時も若々しくお持ちになるのと、普段から体を好く動かされますし、様々な事に常にチャレンジされるお気持ちが、あの若さを保たれる秘訣ではないかと考えております。私どもも大いに見習う必要があると思います。

さらに、教授がお元気でいらっしゃる為には、奥様の御存在が大きいとおもわれます。教授が活動的な分だけ、家庭での奥様のサポートはさぞかし大変であろうと推察いたします。教授並びに奥様におかれましては今後も益々御壮健でご活躍され、私どもを御指導・御鞭撻していただきますようお願いいたしまして、発起人としてのご挨拶とさせていただきます。

宴たけなわの祝賀会

パーティー報告

川　越　正　一

9月30日に還暦を迎えられました田島教授の還暦を祝う会が、河野雅行先生と医局長を代理発起人として、10月10日に宮崎観光ホテルにて開催されました。

来賓としてご臨席頂いた衛生学教授の濱田稔先生、第2外科教授の鬼塚敏男先生をはじめ、多くの教室員、同門会会員、そして歴代婦長の方々、リハビリ部スタッフ、教室事務スタッフの御参加を頂き、合計101人という、盛大な会となりました。

当初は、医局長、副医局長、厚生係で、他科で行われた還暦祝賀会の資料を元に、案内状の発送や会場手配、記念品のプランをたてていました。そして、開催の迫った2週間前からは、教室教官各位の御協力を全面的に頂き、数回の実行委員会会議を行い、夜遅くまでそれぞれの担当の準備にあたって頂きました。さらに、当日は院内、院外の研修医の方々にも裏方として加わって頂きました。ここに、参加して頂いた方々、そして、共に開催に携わって頂いた方々へ厚く御礼申し上げます。

会は、教授の赤いスタジアムジャンパー姿での記念撮影で始まり、続いて紅の間に教授ご夫妻を迎え、祝う会の開始となりました。仲人として入場される時とは違い、教授のメインテーブルに到着される早さに驚いたのは、私だけだったのでしょうか。まるで、内野ゴロを打って、一塁にかけ込むような印象に思えたのですが。

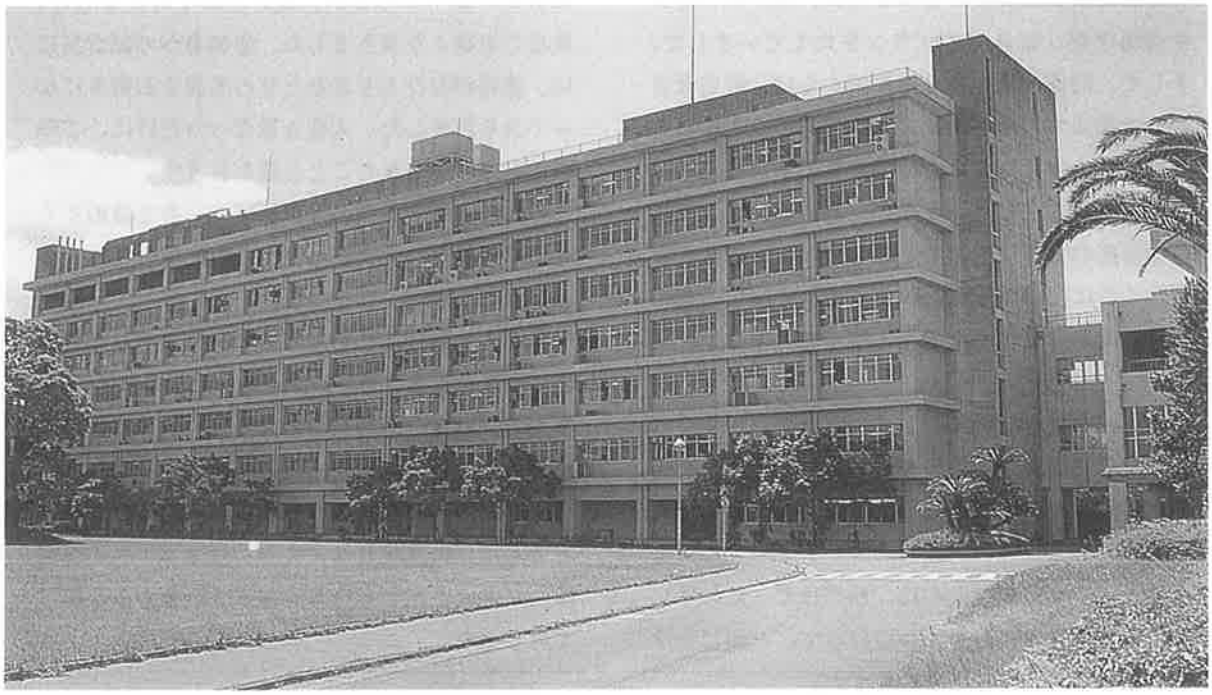
来賓の方々の御祝辞を頂いた後、記念品・花束贈呈となったのですが、記念品・花束の準備に多少手間取り、教授ご夫妻にステージに上って頂いた後、空白の時間が生じてしまいました。この間、進行役が気の利いたことを言えばよかったのですが、アドリブの利かない私は、あちこちうろつくだけでした。

教授の御挨拶を頂き、長鶴先生の乾杯の音頭にて、祝宴となりました。その後、テーブルスピーチ、帖佐先生のスライド発表による教授のお若い時代のお姿の御披露、教室歌・教室旗披露と、宴はお祝いムードのなか、進行されて行きました。教授ご夫妻より頂きました、参加者への記念品には、奥様がおひとりおひとりの名前をお書きになっておられました。大変な数だっただけに、ご準備にもご苦労されたことと思われます。

最後に、岡田先生の万歳三唱で、会を締めくくり、その後の二次会にも、多くの先生の参加を頂きました。

発起人・進行役としましては、準備不足で皆様に、失礼申し上げました点もあったと存じますが、多くの教室員・同門会員の方々と、教授の御還暦をお祝いできたことを、大変満足に思っております。ご協力頂いた皆様への感謝を再度申し上げるとともに、田島教授御夫妻が、今後ますます御健勝にて末永く私どもをお導き下さいますよう願っております。

宮崎医科大学附属病院　COLLEGE HOSPITAL



宮崎医科大学基礎臨床研究棟　Basic and Clinical Research Building

随　筆

人間尊重

木　村　千　仞

去る7月に仙台でのRA研究会に出席した折、特別講演として松島瑞巌寺住職平野宗浄老師のお話を拝聴する機会を得たが、そのタイトルが上記のとおりで、釈迦誕生から師が大学教授になられるきっかけであった一休禅師の研究など興味深いいくつかの話をされた。一貫した話の筋は人間愛であるが、固苦しさも退屈もしない上手な講演に感じ入った次第である。その中の1つに高鍋藩から米沢藩主として養子にいかれた名君上杉鷹山の縁組みがある。米沢藩家老の話では正室となられる吉姫は顔貌醜く手・足に麻痺があり（CP？）、まともでないから名のみの嫁として、側室を迎えられる様薦めたとのことであるが、鷹山は正室吉姫に人間的な愛をもって誠心誠意盡され、貧窮の藩政改革、節倹励行、財政改革、殖産興業、新田開発、藩校設立など偉業を全うされた人である。＜家＞にしばられていた封建的なタテ社会の中にあって、人間尊重を理念として結ばれたヨコ社会の夫婦愛、君主と人民との人間愛こそ今の日本に望まれる政治家の手本である。

「もんじゅ」の事故がきっかけとなって動燃による三重・四重の嘘報告がばれ、事故調査委員会の東大教授3名、助教授1名らの提言が1月の某新聞で報道された。曰く「原発地域に老人を集めよ。生殖をしない老人にとっては放射能のリスクは少ないから、住むだけでお金を与え、電気代を無料にして老人のパラダイスにする。この費用は原発立地以外の住民の電気代を高くしてまかなう」。これには一般からの反発が当然起こった。人の命を何と考えるのか。原発地域と高齢者に対する二重の差別だ。放射線障害を遺伝的な部分でしかとらえない非科学的発想で、ナチスの選別思想だ、などなど。理数科を高得点でくぐってきた偏差値尊重のなれの果てはこんな発想で事故調査をしているのかと唖然となる。科学技術庁も動燃や電力会社も、安全だとの売り込みで過疎地に原発をつくり、長距離を高いお金使って大半東京へ送るくらいなら、電力を最も必要とする東京圏内で原発を造れば良いではないかとの米長棋聖の対談は面白かった。

最近の政治家・学者から役人に至るまで「人間尊重」の基本的な理念のかけらさえも伺えない者が多すぎる。何かが間違っているとしか言いようがない残念な世相である。

山　小　屋

河　野　雅　行

自分の趣味について何か書けといわれ書くものが無くて困りました。元来飽きっぽい性格であり、様々な事に手をだしては壁にぶち当たると、それを乗り越える努力も面倒で、又自分の能力に限界を感じて諦めてしまい、何一つ人並みに誇れる趣味がありません。それで今回は、編集長より戴きました“山小屋”をテーマに書きました。

以前より自然の中を動き回ることが好きで海に山にと出掛けておりました。それも気が向いた時に気の向いた所に出掛ける我儘なものです。気候の好い春から夏にかけては日南海岸・霧島・双石山系を歩き回り、秋には紅葉を求めて県内の渓谷を散策しておりました。東北や京都の旅先で観た紅葉に感動して、宮崎の近郊でもそのような所はないものかと探してみますと、高千穂峡・椎葉・尾鈴・霧島等有名な所は勿論すばらしい紅葉を観ることが出来ますが、少し遠いのと混雑するのが難点です。近場では、綾川・三財川・三納川上流域が車でも簡単に1時間足らずで行くことができます。東北の紅葉程には鮮やかには変りませんが、なかなか風情があり宮崎の自然の美しさを再発見することができます。なかでも拙宅よりは三財川へのアクセスが良く頻繁に出掛けていましたが、日帰りでは物足りなさを感じていましたところ、紹介する人が在り、7～8年程使用していない空き家を手に入れることができました。九州山地の端に在る掃部岳（かもんだけ）の登山口にあたり、そこよりも上流には現在は人家が無く直ぐ下には清流があり、自宅より約30分で行ける、などの好条件でした。未だ見たことはありませんが、近所の人の話によりますと野猿や野兎・猪が出没するそうです。また清流では鮎・鮠・蟹・山女等が沢山獲れますし、シーズン毎に夫々の目的で入山する人が多く、日中はそれなりの賑わいもあります。ロケーションは良いのですが、全くのあばら家で電気も水道もなく夜になると周りは山中で真っ暗となり、使用可能かどうかも判らず最初はどうしたものかと思い悩みました。取りあえずはライフラインを確保する必要があり、九州電力に配電を依頼、近所の湧水をパイプで分けてもらいました。構造物も庭も荒れ放題でしたので、当然手入れが必要でしたが、可能な限り自力でやることにしまして、掃除・雨漏り修理・トイレ排水修理・ペンキ塗り・壁補修・庭草刈り・フェンス作り等を家内や時には手伝いを交えて休日毎に作業しました。特に雑草は山地であり大層勢いが強く刈り取った端からすぐに伸びてきて悪戦苦闘の連続です。現在でも頻繁に草刈り・除草作業は必要です。家の補修を簡単に考えていましたが、自分でやってみて大変なことを始めたものだと直ぐに後悔しました。皆に大見得を切った手前、途中で挫折することも出来ず、頻繁に日曜大工の店に飛び込んでは様々な道具を買い込む日が続きました。しかしどう頑張っても素人では不可能なことが多く、途中から専門家に依頼することになってしまいました。私が大分いじり回した後であり手直しが容易ではなかったようです。結局高い修理代となり、且つ不充分な出来上がりとなってしまいましたが、一

応自分を納得させております。最初は使える状態になるかどうか不安でしたが、3カ月程懸命に頑張った結果どうにか目鼻がついてまいりました。勿論現在でも補修・保守管理は進行形です。

夏になりまして、一応のけじめを付ける為“山荘がらく”と命名しました。独立独歩・整理整頓・勤労奉仕（殆ど私自身が出来ないことです）等のアウトドアライフの基本的な規則集を作り、玄関や居間に貼って自分自身を戒めております。使用可能になりましてからは夕方は時間が取れるかぎり殆どそこで過ごしております。翌朝食は厨房を使用せずに、庭に竈を作りそこで飯盒炊飯が定番となっており、最近は大分上手になりました。真夏の日中は山中といえども勿論日差しが強く暑さを感じますが、日陰は谷風が吹き上げてきますし、夕方以後はエアーコンは必要ありません。労働後に夕焼けの山を見ながら涼しい谷風の中で飲むビールの味は格別なものです。刻々と移り変わる山の色合もなかなか風情があります。夜は自動車はおろか人の行き来も殆ど無く、聞こえるものは谷川の音と虫の声だけです。時たま庭の街灯にカブト虫やクワガタが翔んで来ます。明かりを消すと満天の星が見事です。古い家ですが、部屋数が多いので様々な道具を持ち込み特別室をつくりました。卓球室・トレーニング室・カラオケ室・陶芸室・音楽室・木工室等です。庭にはバスケットボード・ゴルフネットを設置しましたが未だ使っておりません。息子達も夏休みで帰省しておりましたが、“がらく”が気に入ったのか若しくは親元が煙たいのか殆ど自宅には居らず山に滞在していたようです。裏に少しばかりの空き地があり、現在薩摩芋・種々の大根類・豌豆・空豆などあまり手を加えなくてよい作物を植えております。芋は近日中に収穫予定ですし、来年は自前の野菜が食べられるかもしれません。庭の隅には野蒜や紫蘇葉が多く自生しており、付近には野生の葡萄・あけび・苺等もとれます。春には蕨や多種類の竹の子が収穫出来ましたし、天然の味も捨てがたいものです。道路添いには季節により山つづじ・山藤・萩の花・紅葉が観賞できます。先日の台風の後には隣の栗山の実がたくさん庭に落ちていまして思わぬ収穫に喜んだこともありました。庭の端に大きな渋柿がたわわに実をつけており、時間をみて吊し柿を作ろうかと計画中です。下の川で鮠が沢山釣れますが、料理するのが面倒であり、ぼうふら予防の為に庭の防火用水に入れております。年末頃には、植木市で果実木を買い込み庭に植えたいと考えております。色々構想は練っているのですが、尻拭が廻ってくるのを心配してかあまり余計な計画は立てないようにと、家内から釘を刺されております。今からは紅葉の季節ですが、今年は好天気に恵まれましたのでさぞかし見事であろうと期待しております。

最近は週末になりますと誰か彼か集まって来まして楽しんでおります。

宮崎市内からでも約半時間で来れますので時間の有る方は是非御家族でおいで下さい。但し自給自足が原則で飲食物は自前で持ち込み、調理・後かたづけも自分でお願いします。

現代スズメ蜂考

山　口　一　郎

最近スズメ蜂に刺される被害が多いと、新聞やテレビで盛んに報道されている。三年に一度の当り年であり、女王蜂が巣作りを始める初夏の気候が比較的安定していたせいでもあるという。

新聞によれば、スズメ蜂には住宅地に巣を作りやすい黄色スズメ蜂や小型スズメ蜂と、山などの軟らかな土中や大木の洞などにしか営巣できない大（型）スズメ蜂の３種がある。黄色や小型が住宅地を中心に増加するのは、天敵である大スズメ蜂が都市に進出できないこともあり、またエサ事情も街で飲み残しのジュースや食べ残しの魚が豊富にあるなど、住宅地は居心地がいいのでは、との事である。

蜂と言えば、小学校に入る前だったと思うが、一度刺された事があった。初夏の頃、青々と繁った柿の木に登って遊んでいて刺された。吃驚（びっくり）していつまでも木にしがみついていた為、頭を中心に２～３ヶ所やられた。この時は祖母が木の枝で払って木から降ろしてくれた。懐かしくも痛い思い出がある。

５～６年前、やはり初夏に、庭の椿の下で雑草を取るのに夢中になっていた時、イバラの棘が刺さったような感じがして腕を見ると、足長蜂がそこにはり付いて居た。繁った椿の葉で隠された所に手の拳大の巣があり、気付かないうちに彼らの危険領域に踏み込んでいたのである。刺された傷は次第に腫れ、しばらくするとその中心部が２㎜程の黒っぽい壊死創となった。巣はそのままにして以後あまり近付かなかった。今でもその傷が右前腕に残っている。

先日、６才くらいの女の子が、蜂に刺されたがなかなか治らないとやって来た。左下腿部に約２㎜大の皮膚穿孔創と膿がその中に詰っており、周辺は発赤と腫脹が残っていた。その母親に「足長バチではないですか？」と聞くと、一瞬不思議そうな顔をして「そうです」と答えた。創は抗生剤を使用し、一週間位で治癒したが、何よりも自分の痛い経験を生かせて嬉しいような得意なような気持ちがした。

平成６年やはり夏、ボイラーのある小さな倉庫に探し物をする為入り、あれこれ引っくり返していると、“カチカチ”と小さな音がしたようなので何気なく前方を見ると、一匹のスズメ蜂が空中に静止してこちらに照準を合わせていた。あわててしゃがみ込み辺りを見回すと、入り口の左にメロン大の茶色と白のまだら模様の巣がかかっており、そこにも２～３匹のスズメ蜂が巣を守っていた。倉庫を飛び出して良く考えてみると、どうも危ない。できれば温存したかったが止むを得ず、巣を取り除いてもらう事にした。この時は、自分が居ない間に仕事が終っていたので詳細は不明であった。

平成９年８月、庭の掃除をしていて生垣のヤブ椿の枯れ枝に、例の見覚えのある巣を見つけた。前回の反省もあり、今度はこの蜂の巣を取らずに育てていこうと、殊勝な心を起こし家族には黙っていた。時々、思い出しては見てみると、その都度大きくなっているような気がした。しかし特に

スズメ蜂が群れをなして飛んでいるふうでもなく、またこちらも危険と思われる所以上には近づかずで、お互い平和条約を遵守していた。9月中旬頃家のものが生垣の外を掃除中、「大変大変、うちにスズメ蜂の巣がある」とびっくりして家に飛び込んできた。前回は止むを得ず取り除いたが、今度はできるだけそっとしておきたい旨を話し、“触らぬ蜂”で行く事にした。それにしても、自宅は小学校の近くで更に悪い事には生垣の外は通学路になっており気になって仕方がなかった。そうこうするうち巣は次第に大きくなり、注意して見ればその通学路からも見えるようになっていた。

9月後半になるとスズメ蜂の被害が頻繁に報道されるようになった。が、まだ遠雷であった。極めは10月3日鏡山で中学生ら30人がスズメ蜂に襲われたというセンセーショナルな報道であった。テレビに撮し出された道路壁の蜂の巣は、我が家のものと同じであり、地理的にもかなり近くなった。うーん、危ない。また、万止むを得ず、前取ってくれた人に頼み込み、夕方に来てもらった。今回は巣が少し高い所にある為、アルミの梯子を準備した後、自分は家の炊事場から見学する事にした。彼はまずガスバーナーを準備し、炎が充分勢いを増した所でやおら防禦服をはき始めた。長靴の上から雨ガッパのズボンを垂らし、その境界部をガムテープでシールした。同様に腰、頚部及びずきんや眼鏡との境もすべてガムテープを使用して少しの隙間もないほど密閉した。手に土木用の厚手の手袋をした後、アルミの梯子に昇り攻撃して来る蜂を次々とバーナーで落としながら、実に手際良く巣に手をかけた。「この巣は大きいですなあ」「小学生が刺されると危ないからですなあ」などと呑気な事を言いながら、取り込もうとした瞬間、ポリッと音がして巣が地面へ落下し簡単に二つに割れ、中から黒いスズメ蜂の群れが次々と飛び出した。こっちはその横路を人が通りはしないかと冷やひやしながら見ていたが、取っている当人は別にあわてているふうはない。梯子を降りてきて、大きな土のう袋を開け、割れた巣とそれを守ろうとして巣についているスズメ蜂を造作もなく袋の中へほうり込み、きんちゃくのようにその口を閉めてしまった。空中に飛び出していた蜂は、まだその辺りをパニック状態で飛び回っている。彼はその場で防禦服を脱ぎ、バーナーを止めた。そして哀れなスズメ蜂とその巣の入っている土のう袋を右手に、道具一式を携えて、平気で帰って行った。あの残っていたスズメ蜂はというと、2～3日は飛び回っていたが、その後見えなくなった。

そもそも野山でのスズメ蜂は、成虫になると木の蜜などを吸い、幼虫は成虫が捕らえたハエやアブなどの混虫をミンチ状にしたものを喰べているそうである。凶暴でやっかいな蜂だがもともとは益虫で、地方によっては守り神としてその巣を自宅の軒下などに飾る事もある。新聞には「スズメ蜂が居るという事は、まだ補食する虫が沢山居るという、自然の豊かさを示す指標にもなる」とある。我が家のスズメ蜂が、都市化によって住みついたものか、自然の豊かさ故に住みついたのかは解らない。しかし短期間であれ、彼らが我が家に巣を作ったという事は、ここの環境が彼らにとってまんざらではなく、もしかしたら豊かであるのでは、と考えると、何か有難い気持ちがした。今回を含め2回にわたり巣を取ってしまい、あのスズメ蜂達には本当に気の毒だったと思う。しかし、次にこの近くで巣を作る時は“もう少しこちらの事情を考慮に入れて”営巣して欲しい、そしてここの守り神として今度こそ最後まで繁殖して欲しいと切に願っている。

追伸：これを書き終えた後、50才くらいの女の人が「畑でスズメ蜂に追いかけられ、土手から飛び降りて腰をいためた」と来院された。同門の先生方、スズメ蜂には御注意を。御自宅の周辺にまだらの巣はありませんか？

トライアスロンと食事

押　川　紘一郎

トライアスリートにとりまして、食べることはトレーニングの一部となっております。本日は、レース中の食事を中心にしてお話しいたしたいと存じます。とにかく、ひたすらゴールを目指して前進するスポーツでありますから、途中でエネルギーの切れることほど恐ろしいことはございません。ハングリーダウンとでも申し上げる状態を、一度経験すると、とにかく食べれるときに食べておこうと言う感情に常に支配されるようになってしまいます。

私が、自分のライフワークの一つとしております宮古島トライアスロンの前日からお話しいたしたいと思います。たいていは、カーボパーティと呼ばれます夕食を兼ねた食事会がレース主催者によって開かれます。パスタ、スパゲッティ、寿司、蕎麦等の炭水化物を中心とした食事が出されるのですが、遠慮しておりますと、あっと言う間にお皿だけになってしまいますので、この時から、レースが始まっているようなものです。レース当日は朝4時に起床いたします。試合開始2時間前までに食事を終えるようにいたします。脂肪分を避けて糖質を中心とした食事を2～3人前食べますが、外国の選手もたいていは日本食を食べています。これは日本食がレースに最適であると知られているためでしょう。1時間程かけてゆっくり食事をとりました後、試合開始までの2時間は少しづつミネラルウォーターを飲み続けまして、体の隅々まで水を満たしてしまう、いわゆる「ウォーターローディング」を行います。水泳スタート30分前にゼリー状の糖質をアミノ酸配合のドリンクでわって飲みます。試合開始直前にはエネルギー補給を目的とした飲み物を200㎖ほどとります。1時間30分程のスイムが終了いたしまして、海からあがって参りますともうお腹が空いております。自転車に乗る場所に最初のエイドステーション（食料、水分、医療などのサービス場所）がありますので、水着をバイクシャツに着替えましたら早速ここへ飛び込みまして食料を補給いたします。さすがに水泳の直後ですから、もりもりと食べる気持ちにはなりませんので、オレンジとバナナをスポーツドリンクで飲み込む程度と致します。ここでエイドステーションについてご説明いたします。「エイド」は、バイクコースに13ヶ所、ランコースに11ヶ所、合計24ヶ所設置されており、選手にとりましてはこれがなければゴールにたどり着くことは全く不可能であります。水、スポーツドリンク、バナナ、レモン、オレンジ、サンドイッチ、パン、黒砂糖、クッキー、餅、おむすび、氷、お茶、塩、スイカ、キャンディー、エアーサロンパスが準備されています。この中から、自分の体調にあわせて、いかにうまくとってゆくかがレースの鍵を握っています。試合中は、冷静にみえても、やはり正常な行動をとれないような気がします。私のチームでも毎年一人は水分の補給に失敗してリタイアとなってしまいます。決して水をとっていないわけではないのですが、あわてて飲んだりすると、実際は口の中に入っていないようなことも多いのです。私は今までのレース経験

から、エイドでは必ず立ち止まってボランティアの人たちと会話をしながら水や食物をとるようにしています。話が出来る内は大丈夫と自分を納得させるためです。自分でも簡単な携帯用の食料を身につけていますが、これはどちらかと言えば気休めと言ったところでしょう。レース全体を通してみますと、バナナ20本、サンドイッチ10枚、オレンジ６個、餅４個、ロールパン６個、おむすび４個、クッキー４個、レモン３個、スポーツドリンク７リットル、その他チョコレート、黒糖等、自分でも驚くほど、ひたすら食べ続けながらレースを続けていたようです。しかし、不思議なことに12時間を越えるレースにもかかわらず、私のレースタイムは毎年１～２分しか違わないのです。別に意識しているわけでもないのですが、どんなに頑張っても、ほぼ同タイムでゴールとなってしまうのです。これが私の限界かな～と思っておりますが、年をとるにつれて、ゴール後の体調はかえって楽になり、回復も速まってきています。これも、レース中の食事がうまくコントロールされているためではないかと思っています。レース終了後も本来ならば、身体のために、いろいろと守らなければならないルールがあります。特に私はチームドクターも兼ねておるわけですから、まずたっぷりと水分を補給して、軽い食事と休息をとるべきです。しかしながら、あれほどふらふらとゴールした身体が、宮古島のビールを求めて、走り出してしまうのを、誰も止めることは出来ないのです。トライアスロンと食べ物に関しましてお話しさせていただきました。まだまだ語り尽くせないことが沢山ございますが、トライアスロンというスポーツが食べ物と深く結びついておりますことを、ご理解いただけましたでしょうか。

明日より、私の身体にわずかに残っております中年のパワーを絞り出しながら、３回目のホノルルインターナショナルトライアスロンへ行って参ります。ご声援の程、よろしくお願い致します。

（宮崎中央ロータリー10月例会講演より）

ハワイにて　108位／300名中

今年を振り返る　おもしろい一年　最悪な この一年　何事も巧くいくほうがいい　他

佐藤信博

さあ今年はいい年になりそうだ。いつものように感の良い私のはずだったのですが……

今年は、開業5年目にあたります。節目にあたり、様々な計画をたてました。病院経営の安定と発展に向けての取り組み。念願の自宅建設。その他……年頭より、大変に張り切り様々な所に足をはこびました。

院長としての、自分自身を磨こうと院長塾たるものに月1回の割で東京へ通い始めました。経営者の基本、財務管理、経営計画に始まり禅まで習いました。まだ効果の程はハッキリしませんが、勉強になっております。

まもなく46歳。長男が1年半もしないうちに、高校を卒業し家を出るわけですが、それまでに家族がゆったりと暮らせる家をと考えました。今まで狭い借家暮らしをしている我が家の家族は、あまり持ち家に対するこだわりもないのですが、せめて父の威厳を家族全員がいる内に知らしめたいと願ったのでした。そこで、家族の望みに叶った家を建ててやろうと、張り切りました。幸いなことに、土地は希望どうりに入手できました。アメリカンホームをと言うことで、早速、設計に取り掛かり、様々な建築会社が介入してきました。こちらもそれに乗り、アメリカ、シアトルまでも2回行きました。期待は膨らみ5月には宮崎市のK建設に建設を頼み地鎮祭をいたしました。米国からも大工さんも来ていたのですが、その2日後突然K建設より建設辞退の知らせを受けました。寝耳に水と言った心境でした。今や建築予定地は、雑草畑と化し、父の威厳もどこ吹く風と言った所です。幻の我が家……いつ実現するのでしょうか、そばで妻だけがおもしろがって動向を伺っております。

そんな妻にも大変な事がおこりました。3月、股関節手術のため入院しておりました県立日南病院を退院する途中、交通事故にあいました。それも、ファースト交通の福祉タクシーの寝台に乗っていての事でした。タクシードライバーの居眠りか前方不注意で4重衝突し、3mほど宙を飛び、フロントガラスに衝突、みごと助手席に着地。宮崎市本郷南方での事故で、救急車で宮崎医科大学整形外科に搬送されました。田島教授はじめ、先生方には本当にお世話になりました。この場をお借りして、お礼を申しあげます。お陰様にて、元気になりました。首が回らぬは、借金のせいだろうと、首のリハビリをしております。ファースト交通は事故直後より、自賠責しかないので早く治療を終了してくれとのご挨拶。みなさん、乗車の際は任意保険に入っているしっかりしたタクシー会社を選びましょう！

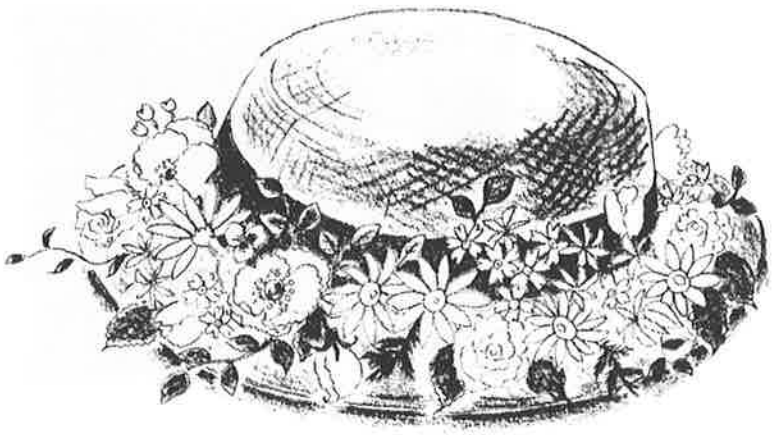
10月より院外処方に移行しましたが、これにも話せぬ苦労がありました。薬剤師会の内部紛争のあおりで、7月の予定が遅れしかも違う薬剤師の方にお願いすることになりました。（人の争いの醜さを見せつけられました。）

その他の計画も足踏み状態。

何事も巧く行くにこしたことはありませんが、時には足踏みしながら過ごすのも人生勉強。こう考えられるのも院長塾のたまものでしょうか？しかし、今年は２度目の厄年かもしれません。

くわばら、くわばら……来年こそは良い年でありますように！　　良い年にします！

皆様にも幸あれ！！！！！



整形外科とデイケア

――診療所にデイケアを併設して――

岡　田　光　司

老人デイケアなるものを平成６年３月に併設し、３年８か月を経過した。当初は脊椎圧迫骨折、大腿骨頚部骨折術後、膝OAなどで通院が困難な老人患者のために、送迎とリハビリテーションということで導入した。スタートさせてみて知的障害（痴呆）が問題であることや、家族及び社会的介護支援が十分でないために、寝たきり寸前の状態の老人が地域に結構在る現実が判った。結局、その様な障害老人に心身機能の回復・維持および生活援助を行うようになり、現在に至っている。

業務内容は(1)本人の知的・運動障害及び家族介護力の評価(2)栄養・清潔の維持(3)「ぼけ」防止、体力・運動能力機能の改善のための種々のプログラムの実施、である。これらは新規事業であるが、スタッフは意欲的に取り組んできた。私自身は整形外科診療の他に、一般医師として診療に当り、またミーティングに参加している。

生活の支援という意味ではデイケア以外の生活が考慮されるべきだが、そのためには他のサービスとの連携が不可欠である。当デイケアでは症例カンファレンスへの、家族、保健婦、ヘルパーなどの参加を検討している。

以上がこれまで模索してきた私どものデイケアの概要であるが、地域ケアのニーズに対して、地域医療が基本である診療所は、デイケア、訪問事業など何らかの形で関わらざるを得ないであろう。また痴呆予防に身体活動度を高めるべくリハビリテーションの適応が様々あると思うが、整形外科的立場からもアプローチされるべきと考える。今後のデイケアの運営については経済誘導的な保険点数設定、対象者の適応や収容人数などの規制強化、また介護保険導入など政策的な動向に留意しながら対応をと考えている。

近況報告

平　川　俊　一

同門会誌の原稿依頼がありました。実は最近何も考えていないので困ってしまいました。何も考えていないというのは、新米開業医として不謹慎だという非難の声が聞こえて来そうです。本当は借金返済とか経営とか色々と思い悩んでいる筈なんですが、ひょっとすると私は大物かもしれません。原稿を書こうとコンピューターの画面に向かうと頭の中に何も残っていないようです。頭の中のどのファイルを開いてみても、どうやら最近はたいしたことは考えていないようです。とても人様に御見せできるような内容ではないようです。開業というイベントは自分にとって小さい出来事ではなかった筈ですが、改まって考えてみるとここまでは一つの流れの中で進んできて、自分にとって自然な事だったのかもしれません。

恐らく今ひとつの問題は、ちょこちょこ医局に出没する事です。みんな心優しいので邪険には扱われません。大学に17年ちかくいましたので体がつい医局の方に向かってしまい、夕食も済んで暇になると、家に居るよりは医局に居る方が居心地がいいと感じるらしいのです。これは甚だ具合の悪い事です。早く乳離れならぬ医局離れをしなくてはいけません。更にもう一つの問題は、体重が増えてきました。ベルトの穴が除々に減ってきました。結婚でも増えなかった体重が自慢でしたのに、これもちょっとやばい事です。ここで踏ん張らねばズルズルといってしまいそうです。先日万歩計を買いました。一日平均七千歩から八千歩の歩数のようです。特別スポーツの趣味もありませんから半年以上休んでいたゴルフを再開するしかありません。久しぶりに練習にいってみると、ドローボールが弱々しいスライスボールになっていました。足腰の衰えももうすぐのようです。と言う事は頭の衰えも意外と近いのかもしれません。これは困ったぞという事で、まずは体を動かす事から始めたいと思います。

私の開業に際し皆様に色々と御迷惑をおかけ致しました。この誌面を借りまして御詫びと共に御礼の気持ちを伝えさせて頂きます。

追伸：今のところ平川は元気です。

開業―生みの苦しみと作る喜び

福　田　健　二

平成９年８月４日、佐土原町に、無床診療所の「ふくだ整形外科」を開院致しました。

佐土原の片田舎のちっぽけな診療所ではありますが、こうして、まがりなりにも開業できましたのも、いろんな方々のご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げております。

開業を決めてから、実際に開院するまでの過程は大変でもあり、エキサイティングでもありました。最近では医療コンサルタント会社や設計事務所が土地の選定、交渉、設計は勿論、マーケットリサーチ、資金計画、銀行とのやりとり、開院に必要な諸手続から機械購入、経営相談までありとあらゆることを代行してやってくれるようですが、私の場合は敢えて自分で何もかもやってみようと思いました。やってあげますよと言われると意地でも自分でやりたくなる性格と、何でも知りたがる、やりたがる好奇心がそうさせたのです。自分で図面を引き、内装、レイアウト、色使いと家内と二人で夜遅くまであでもないこうでもないと言い合って、時にはそれが夫婦喧嘩の種になることもありました。「うちの場合、デザイナーもコーディネーターもいなくて出来上がりがどうなるか恐ろしいね。」と言いながら、もうどうにでもなれと開き直っておりました。資金計画を立て、周辺の人口や交通の流れを調べ、収支の予想を立て、計画書を作り銀行へ持っていきました。医療器械や消耗品、医薬品の選定、業者との折衝、それと、どこからともなく開業の噂を聞きつけてやってくるありとあらゆる業者との対応。そんな中でも一番大変だったのが、県や保健所への手続きでした。労働基準監督署や福祉事務所にも足を運びました。他の準備が整っても、許認可が降りなければ元も子もないわけで、お役所と許認可を受けざるを得ない弱い立場とをいやと言うほど思い知らされました。

しかしながら、そんなことが、本当は実に楽しいことなのであります。思えば、少年の頃、プラモデルや雑誌の付録を作ることは楽しかったし、食事や宿題をそっちのけで熱中したものです。長じて、中学、高校、大学と文化祭や学園祭で企画を練り、準備していく過程はわくわくした喜びを感じたし、Drになってからは、学会発表で原稿を練ったりスライドを作ることが、大変だ大変だといいながらも密かに面白いと感じていたような気がします。手術にしても、計画を立て、予定通りの手術ができた時の満足感、充実感は例えようがありませんし、まさに物を作る喜び、醍醐味の極みではないでしょうか。やはり、人間にとって物を作るということは根元的な喜びであることは間違いないと思います。開業という事業を通して、いろんな意味で大変勉強になりました。それにもまして、ものを作り上げる喜びを味わうことが出来ました。ただ、診療所を作っただけで喜んでばかりもおれません。医療を取りまく環境がますます厳しくなってきている中での開業で、本当に大変なのはこれからなのですから。初心者マークの開業１年生ですが、今後とも何卒宜しくお願い申しあげます。

新入賛助会員紹介

私のストレス解消法

押領司　光　雄

40歳で、故郷小林に帰って来て、開業し、13年が過ぎました。開業に夢を持ち心弾ませて出発しましたが、すぐに自分の甘さに気づかされました。現実は、忙しさと労務等の煩わしさに悩まされ一年一年、ストレスと追いかけっこしながら仕事に追いまくられて過ぎて来たと言う感じです。そしていつの間にか50歳を過ぎてしまっていることにびっくりしています。

そこで、この13年間を振り返って、毎日のストレスをどのように解消しようとして来たのか考えてみました。

普通は、酒とかゴルフ等で発散するのでしょうが、私は酒の飲み方が下手で、ピッチが早いせいか、すぐに酔ってきつくなります。また、ゴルフは自分の頭の中のゴルフと現実が余りに違う為か、返ってストレスになる事が多く、熱中出来ませんでした。

まず、最初の開業約３年間は、休みの時は都井岬に鯛釣りに出かけ、広い海原で景色を眺め過ごしました。

しかし、舟に弱く、２回に１回は舟が出ても舟酔いの為、寝ていることが多く、船頭さんに釣ってもらい、自分で釣ったような顔をして持って帰る事が多かったようです。10kg以上の大物をと頑張りましたが、65㎝、3.7kgが最高で、大きなクーラーがいつも泣いていました。

次の３年間は渓流釣りに転向して、やまめ釣りをやりました。この楽しみは釣り解禁になる３月から禁漁となる９月末迄で、渓流の景色の移り変わりに見とれながら、又、川で食べるおにぎりのおいしさが、何とも言えません。29㎝、240gのが一番大きく、自分で魚拓にしましたが、次第に釣る人の方が多くなり、やまめも少なくなって足が遠のいてしまいました。

次の３年間は家の横で畑仕事に熱中しました。私の場合は、収穫の喜びよりも途中の作業が楽しく、運動不足解消と、汗を流した後のビールの楽しみの為に熱中しましたが、肥料の為か、両手にアレルギー性皮膚炎をおこし、止めざるを得ませんでした。

次の３年間は植木に凝り、造園士が造った庭を気に入らないと言っては自分で植え直し、植木市で買って来ては植え直しと、内心自分は医者よりも芸術家に向いているのではと自惚れ、かなり没頭しました。私の家の木は根を張る暇が無く、口があったらきっと悲鳴をあげていた事でしょう。

そして、この１ヶ月程は運動不足解消と健康の為に、ゴルフを真面目に練習してみようかと思いたち、家の庭に鳥かごを作り、練習を始めているところです。しかし、いつまで続くか自信が持てず、次に熱中するものは何かないか、いろいろ考えているところです。

最後になりましたが、宮医大同門会に賛助会員として参加させていただき、ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

〈自己紹介〉

佐　井　伸　男

この度賛助会員に加えていただきました。この場を借りて簡単ながら自己紹介させていただきます。

住　　所：延岡市永池町２－５－４
家族構成：妻
略　　歴：昭和58年　福岡大学医学部卒業
　　同年　　福岡大学医学部整形外科入局
　　平成６年　佐井病院副院長
趣　　味：
　ドライブ；最近は主に市内での買物に出かける程度です。
　スキー　；スキー歴だけは20年近いのですが腕前は初心者＋？特に最近は体重増加に筋力の衰えも相俟ってかなりあぶなっかしい状態。それでもシーズンともなると暇を見つけて五ヶ瀬スキー場へと出かけています。

以前より当地で開業していました父の病院で平成６年より勤務しています。それまでの勤務医時代と違い、きびしい医療環境の中での中小病院の悲哀を肌で感じる今日この頃ですが、今後も新しい知識を吸収し地域の医療のために貢献できるよう努めたいと思います。

この頃

深野木　正　人

1、「猫、養い親説」

つまり、猫は自分がこの家の主人だと決めているらしく、家の者を養っていると考えているということです。猫が、虫を、又はヤモリを（ゴキブリ、ネズミ等）くわえて居間に入って来、私達の前で、それをぽとりと落とす。私達に猫は言うのだそうです。「これでも食え」食えと言われても、なかなか口にするのは難しい、そこで、

① せっかくの猫の気持ちを踏みにじるのはどうしたものか？

② 逆に食べようとしない私たちのことを思って、猫はどう感じているのか？

2、1個100円のケーキがあり3個買うと200円とありました。

こういう問題に日本の子は100円得と答えるそうですが、アメリカの子は勿論日本の子と同じ答えをする子もいますが、「3個買っても、1個しか食べられないので100円損をする」「1個自分で食べ、残り2個は友人に売ればタダになる」等々の答えをだすそうです。

3、大政奉還後、薩長土と幕府との戦になり奥羽戦争、箱館戦争にいたるまでの榎本武揚や大島圭介の行動はけっして徳川家への忠節にもとずくものではなく、彼らが目指していたのは、この戦争への外国の介入をおそれる勝海舟の指令に従って、頑迷する主戦派を北海道までおびき出そうとする八百長戦争であり、はじめから負けることだけを目的とした戦争だった。徳川300年来の封建体制をくつがえすには戦争をし、之に負ける事だった。いづれ薩長が勝っても薩長も残りはしない。藩、殿様も姿を消すだろう。

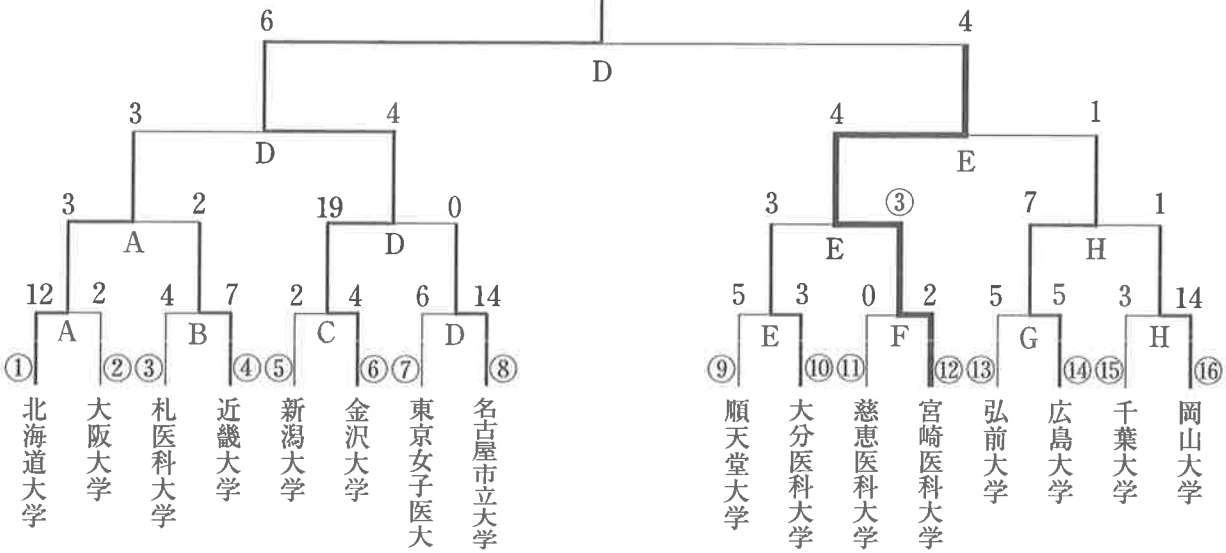
最近読んだ本のなかから面白いと思った所を書いてみました。多くの人がいろいろと考えそれを表現し、皆に語りかけていますが、余命をどう生きればよいのか、つきあたらないでいるのは僕のみでしょうか。

一方この頃は心理学者とか、精神分析医とかが勝手な事をいってますが、いかが感じていらっしゃいますか。

野　球

日整会全国親善野球大会　準優勝

決　勝　戦



野　球

決勝戦までの道のり

（キャプテンとしての立場から）

松　元　征　徳

野球は他の球技と違って、非常に計算困難なスポーツです。なぜかって？、球を使うスポーツなんですが、個人として球を捕って投げるのはバッテリー以外だと多くて３回程度、打つ回数は多くて４回程度と、個人がいかに燃えても試合の中での個人の力は小さいもんなんです。また、肉体的疲労より、数少ない自分の攻守の場を堅実にするための精神的緊張の方が大きいのです。高校球児が意味なく大声を出して野球をしているのは自分への励ましとチームに対する団結、少しだけバッターへの威嚇ですね。野球にはKazuやMichel Jは必要ないんです。とにかくチームワーク。（内の医局では安藤投手が似た存在ですね。）勝算はどうするか？普通、わたしは対戦相手投手と捕手を見て、今日の内の打線で何点とれるだろうかと考えます。次に石田、安藤先生の調子をキャッチャーと相談し、３点以内で抑えてくれると信じるわけです。これで、引き算をすれば、おのずと派手な攻撃か地味な攻撃かが見えてきます。しかし、ここからが計算困難なゾーンに入ります。試合の流れと運を引き寄せなくてはなりません。これが、田島教授（監督）のお仕事になるわけです。とりわけ重要なのが、バッテリーと主軸の精神的緊張とその糸が切れたときの治療が大事ですね。また、選手同士が試合全体をどう戦えばよいかを理解するか、させることが大事です。１点勝負の地味な攻撃が要求される試合で大振りをする下位打線のチームは勝てません。（内の下位打線は大丈夫です。）さて、そういう目から今大会の結果をみていきましょう。

１回戦：東京慈恵会医科大学（２－０）予想ではコールドゲーム。相手のバッテリーは超スローボール、いつでも点がとれるという自信が派手な大振りとなり、重苦しい雰囲気を作ってしまいました。反省～打線は水物

２回戦：順天堂大学（３－３）東医大優勝投手率いる強豪。１回戦の悪い雰囲気がそのまま前半にひびき３－０と先制されての苦しい試合。後半に追いつき試合の流れを掴んだが後一歩でありました。反省～ジャンケンはもうしたくない。

準決勝：弘前大学（４－１）ジャンケン勝利で運を掴んだせいか、初回に一挙３点をもぎ取りました。相手の攻撃を堅い守りで１点に抑えて決勝へ。反省～すすきのnight mapがちらついてきた。集中しなければと矢野先生、工藤先生と相談した。

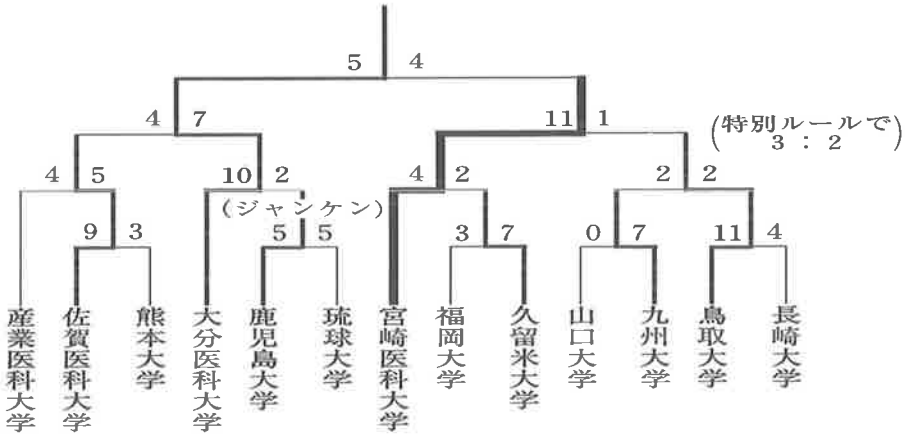
決勝戦：金沢大学（４－６）初めての人工芝での試合で堅い守備に乱れが生じ、安藤投手の精神的緊張が切れてしまった。敗因は無く、相手が強かったということ。反省～田島教授の口から人工芝でも練習しないといけないねと指摘された。

以上の結果から、投手王国の我がチームは３点以上確実にとれれば、勝算は高い。名前は控えさせてもらいますが、４番が打てば、優勝できた大会であったでしょう。

第40回西日本整形外科親善野球大会（1軍）

［一軍］

大分医科大学　優勝



野　球

2年連続全国大会出場決定！

（1軍）

矢　野　浩　明

平成9年7月、1年半ぶりに宮崎に帰ってきた私の元に1本のTel.が鳴った。2軍キャプテン松岡Dr.からだった。“俺が2軍のCap.をするから1軍は同学年の矢野がCap.だからな。”というTel.だった。そういう理由で今年のCap.を引き受けることになった。

我がチームは、前年度優勝そして全国大会準優勝といった輝かしい実績があり、各チームのマークが厳しくなることが予想された。田島監督不在という不利な条件ではあったが、2連覇を目標に本大会に臨んだ。幸運にも前夜祭の抽選会で鹿児島大会以来5年ぶりのシードとなり2回戦からの出場となった。

初戦の相手は久留米大学、自称100kgの石田Dr.を先発に立て、必勝体勢で臨んだ。1回表、軽く2アウトを取った後3番を塁に出してしまい、続く4番に17球粘られた後ボールはセンター前へ、1点先取されてしまった。しかし、その裏1・2番連続出塁の後、4番松元Dr.の2ベースで2得点し逆転、2・4回にも1得点ずつ加え5回に1失点したものの4－2で勝利、準決勝に駒を進めた。

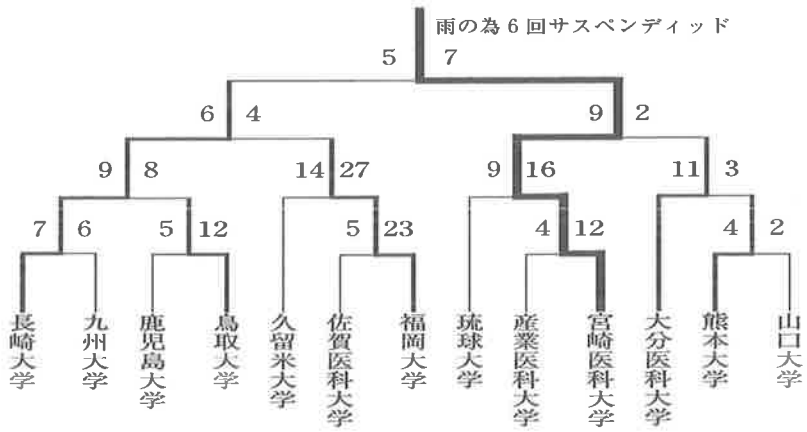
準決勝の相手は鳥取大学、安藤Dr.を先発に立てて臨んだ。1回表、我がチームは有住Dr.を皮切りに4連打を浴びせ、中でも黒木Dr.の体勢を崩しながら決めたヒットエンドラン（2ベース）による4点目が我がチームを波に乗せ、結局初回に7点を挙げた。とどめは3回に放った4番松元Dr.2ランホームランで、ボールは球場の遥か彼方に消えていった。投げては、安藤Dr.のいつもの軽やかなピッチングが光りノーヒットに押さえた。投打ががっちりかみ合い11－1と大勝し、決勝進出を決めた。

決勝の相手は大分医科大学、昨年と同一カードでの決勝戦となった。再び安藤Dr.を先発に立てて臨んだ。2回表不運もあり2点先取されるも3回裏には、安藤Dr.松元Dr.の連続ヒットで1点を返した。すると相手も4回表に4安打を集中させ3点を奪い、4回終了時5－1と4点差がついてしまった。しかし、5回裏に松元Dr.石田Dr.の連続儀飛にて2点を返し2点差となり、最終回には、有住Dr.安藤Dr.連続出塁後4番松元Dr.が左中間にはじき返し5－4と1点差まで詰め寄った。その後1アウト満塁となり試合は最高潮に達した。しかしあと1点を取ることができずに結局5－4のまま試合終了となり準優勝となった。惜しくも2連覇は成らなかったもののかなり粘り強い良いチームとなってきており来年の全国大会が楽しみである。

最後になりましたが、選手を快く送り出して下さいました大学ならびに関連病院の先生方、裏方の仕事をがんばって下さった皆様、応援して下さいました皆様、心より感謝いたします。

［二軍］

宮崎医科大学　優勝


雨の為６回サスペンディッド
5 7
6 4
9 2
9 8
14 27
9 16
11 3
7 6
5 12
5 23
4 12
4 2
長崎大学
九州大学
鹿児島大学
鳥取大学
久留米大学
佐賀医科大学
福岡大学
琉球大学
産業医科大学
宮崎医科大学
大分医科大学
熊本大学
山口大学

野　球

祝　2軍3連覇

松　岡　知　己

去年の2軍の戦いぶりからして今年も問題なく勝ち進み3連覇は間違いないと思い、キャプテンを軽く引き受けてしまいましたが、昨年2軍の主戦投手として活躍してもらった黒木龍二先生、山口の参加ができなくなり3連覇に暗雲が立ちこめました。しかし、柳園先生、浪平先生に参加してもらい戦力的には整い、いざ、福岡に乗り込みました。

1軍のキャプテンの様にくじ運はよくなかったため、優勝までには4試合戦わなければならなくなりました。

天気快晴、雁の巣球場でプレイボール、一回戦の相手は産業医科大学、先制攻撃で一気に大差に持ち込みコールド勝ちを狙うも、なかなか点差が付かなかった。先発樋口先生、その後の新戦力益山の好投と川野の攻守にわたる活躍等で、終わってみれば12－4での勝利。

二回戦は2軍に初参加の琉球大学、先発は柳園先生、上々の立ち上がりと2軍のスピードに慣れた中軸、指名打者の江夏が打ち楽勝と思われたが、琉大の反撃を受け作戦ミスもあり、幻の三遊間を披露することとなり、体力の消耗をしながらどうにか16－9で勝利することができた。

準決勝は大分医科大学との対戦でかなりの苦戦を予想したが、先発吉田の好投と園田先生のホームランを含む活躍で、9－2の願ってもない3回コールドでの勝利であった。

決勝は長崎大学であった。中軸、ラストバッターの帖佐先生の活躍にて序盤より優位に試合を進めるも、息の根を止めることができず、6回までに7－5まで詰め寄られてしまった。最終回雷雨で中断、グラウンドコンディションが悪くなる中で試合再開、12－5まで引き離したところで再び雷雨、グランドコンディション不良ということで7－5の6回のスコアに戻し、ついに、試合終了。

10年選手の黒木隆男先生、浪平先生のほとんどフル出場の健闘、渡部の見事な捕手、2軍重量打戦中隔の本部、野中の活躍を観ると宮崎医科大学整形外科2軍の黄金時代は当分続くと思われた。

暑い中応援してくれた水永婦長、馬場さん河野さんありがとうございました。

結城、渡辺出場機会が少なく、コーチャーの仕事お疲れさまでした。前田、福岡の街は楽しかったですか？

川越先生色々お疲れさまでした。来年も4連覇めざして頑張りましょう。

医局長雑感　平成９年を振り返って

川　越　正　一

本日締め切りの同門会誌原稿を３つと、Ａ教授へのお手紙１つを、本日の夜のお仕事のノルマにしました。今日は、大学の当直で、７時には、小児の橈尺骨骨折がきましたので、原稿を書き始めたのは、９時過ぎからでした。他の３つは、一応できあがり、残すは医局長雑感のみです。10月15日現在、あと78日という数字がカレンダーには輝いて見えます。医局長という仕事は、どなたにもできると思います。ただ、私には、他の仕事は中途半端に終わりそうです。リサーチの仕上げは何回も期限を延長し、任された上肢に関する勉強は納得するまで行かず発展途上、ゴルフは下手になる一方、家庭を大事にしているとも言えません。同時に、いくつかの項目を並べてみると、いつも期限が迫ってきているのは、医局長の仕事でした。このため、そういう仕事に対して時間を使うのが一番慣れてしまい、リサーチの英文仕上げチェックなどは、１週間ブランクがあっても、特に違和感がなくなり、さらに遠のくといった状態になってしまいました。だから、今晩も、期限を切られているリサーチの仕事や、関節鏡視下手術の輪読会の準備をせず、このような原稿を書いているのでしょうか。

さて、本年を振り返りますと、医局の大きな行事として、５月31日に新入医局員歓迎会が行われました。本年も６人のヤングパワーを迎えることができました。同時に開催された、同門会役員会・臨時総会、教室員会議、柏木大治先生特別講演会と、この日は行事が縦並びにぎっしりで、それぞれの準備や運営にも、皆様にご協力を頂き、何とか無事にのりきりました。

６月には、日本整形外科学会での野球大会に九州地区代表として出場し、毎朝、４時起床という、ハードな日程にも関わらず、Ｍキャプテンを中心にチームワークで順調に勝ち続け、決勝戦まで駒を進めました。決勝では、金沢大学に僅差にて敗れ、準優勝となりましたが、十分に誇れる結果でした（Ｋ先生マネージャーお疲れさまでした）。続いて８月に行われました西日本整形外科スポーツ研究会（親善野球大会）では、１軍は惜しくも準優勝（しかし全国大会出場権確保）、２軍は連覇を成し遂げるという結果でした。両大会を通じて、十分に活躍をしていただいた選手の皆様に拍手を送るとともに、何かとご協力を頂いた同門会の先生方に、心から御礼を申し上げます。

なお、西日本スポーツ研修会には、教授は、御参加されなかったのですが、これは、西医体が宮崎で開催され、その運営責任者となられていたからでした。我々医局員も救護班として会場に派遣されることとなり、大学割り当ての約半数の延べ70人程度を整形外科で担当する事となりました。遠くは兵庫県のラグビー会場まで、そして開催競技の多い日には、９名を派遣するという日もありました。そして大学が手薄になっている状態で、各会場からは、重症の負傷者が大学に運び込まれるという状況でした。夏期研修期間をさいての皆様のご協力にて、西医体も無事のりきりました。

さて、11月以降の行事も、西日本脊椎研究会、

リウマチ教育研修会などの開催があります。これらに向け、各担当者が、現在準備を進めている段階です。また、来年は、日本臨床バイオメカニクス学会、日本腰痛学会の開催を控え、教室全体の行事としての認識と、協力が我々教室員に求められていると思われます。

現在まで、大きな病気もせずに、まがいなりにも医局長業務を行えてこれたのも、田島先生の御指導、前・元医局長の御助言、そして、教室・同門の先生方の御協力のおかげと、心から感謝申し上げます。来年からは、恩返しのつもりで、違った立場から、医局に貢献できればと、思っております。

同門会の先生方には、三水会費をはじめ、その他教室に対し、日頃より御支援、御協力を頂き有り難うございます。会誌を借りまして、心からお礼申し上げます。

今後とも教室ならびに教室員に対し、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。末尾になりましたが、同門の先生方の、益々のご繁栄とご健勝をお祈りいたし終わりとさせていただきます。

1年間ほんとうに有り難うございました。

留学報告

スイス研修

帖佐悦男

本年度の夏休みを利用して再度、一ヶ月間の短期スイス研修の機会を得ましたので報告します。

前回と同様にベルン大学で研修させていただきました。今回の研修の目的は、以前より行っていました Periacetabular osteotomy や Cement spacer に関するデータ整理と股関節内 impingement に対する術式などの研修です。

ベルン大学で大きく変化していましたのはスタッフがかなり変わっていたということでした。いくつかのグループに分かれていますが、Ganz 教授と上肢の Hertel 先生以外のグループ長の先生は他の大学の教授などへ昇進されておられ、スタッフがかなり若返っていました。

研修に際して、データ整理で日本と異なるのは、最近日本ではコンピューターに画像データを保存する際、MO ディスクなどを使用することが多いのですが、スイスではまだ普及しておらずデータの保存に苦労した点です。

次に、Mueller 研究所を中心としてコンピューター支援手術が以前より開発されていましたが、かなり現実的なものへと進歩していたことの二点です。

毎日の生活は朝7時15分からのカンファレンスその後手術、原則的に週1回の外来など以前ご報告した時と同じでしたので詳細は省略させて頂きます。

今回の研修中、スイスで開催中の研究会に田島教授が出席され、私もその一部に参加する機会を得ることができました。チューリッヒ大学では、Gerber 教授が主催され発表を中心とした研究会があり、ベルン大学では Ganz 教授の手術見学、Mueller 研究所では生化学、バイオメカニクスなどの研究所視察および開発中のコンピューター支援手術の説明を受けることができました。

今回の研修で学んだことを今後の臨床・研究に役立てたいと思います。最後になりましたが研修の機会を与えていただいた田島教授ならびにご支援頂きました同門会の先生方にこの場をお借り致しましてお礼申し上げます。また、来年田島教授が主催されます日本臨床バイオメカニクス学会に Ganz 教授が特別講演者として来宮されますことをお知らせいたします。

受賞報告

優秀演題賞を受賞して

帖　佐　悦　男

平成9年10月16日から17日に新潟大学整形外科学高橋栄明教授のもと第12回日本整形外科学会基礎学術集会が新潟にて開催されました。今回、幸運にも優秀演題賞を受賞することができました。指導して頂きました田島教授ならびに長鶴先生に深謝致します。私のタイトルは、「股関節単純X線False profile像の意義」に関してでした。

これに関する研究は、長鶴先生が股関節診療に際し、撮影されておられました本法について検討することから始まりました。先生方が御存じのように股関節以外の関節では一般にX線撮影は二方向撮影により立体的に把握していますが、白蓋形成不全を中心とする股関節症のX線学的評価は股関節が仙腸関節や恥骨結合をはさんで連続していますので正面像のみで行われています。例えば、股関節症の自然経過や一次性股関節症の評価なども私が調べた範囲では正面像のみで論じられています。しかし特に白蓋形成不全は側方のみでなく前方被覆も不足していますので、評価は最低二方向で行うべきと考え本研究を進めてまいりました。当然のことながら臨床症状とX線学的状態はパラレルではありませんので、臨床症状を十分把握することが最も大切ですが、より普遍的にX線を用いて評価するのであれば正面像のみでは不十分と考えます。以上のような事を今まで行ってきた研究のひと区切りとして報告しました。特に、今回の日整会基礎学術集会で脚光を浴びておりますのは遺伝子研究やBMP、アポトーシスなどでありますが、臨床を行いながら疑問に感じていることを症例を積み重ねながら、また必要に応じその裏付けを基礎研究で確認するという方法が評価されたことが今後臨床研究を続けていく先生方への励みにでもなればと思っております。

今後もどこでも行える単純X線撮影を工夫し基礎的な裏付けを研究したり、また三次元CTやMRIなどとも比較検討することで、患者の主訴や臨床所見を普遍的に評価できるシステムを検討していきたいと考えています。

今後とも同門会の先生方の御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

受賞報告

ＡＡＯＳに参加して

渡　邊　信　二

第91回西日本整形・災害外科学会においてZimmer travel fellow ship賞を受賞しAAOSに参加する機会を得たので報告します。

AAOSは、平成９年２月11日～18日までアメリカのサンフランシスコで行われました。私を含めてfellow shipでの参加が７名、invited guestとして12名の計19名が今回のツアーに参加しましたが、宮崎からは私１人で同行者に誰も顔見知りはいなく、はたまた治安の悪いと噂に聞くアメリカですので出発前は大変不安な気持ちになりました。しかし、こんな機会は一生の内おそらく一回しかないだろうし団体ならば危険な目も会うことは少ないだろうと思い元気（？）に成田空港へ向かいました。初めてみる国際空港は大きく、空港へ向かうバスの中で検閲があるなどいちいち驚くことばかりで落ちつきなくそわそわしていたので、周りの人にはまるでお上りさんそのものに見えたことでしょう。飛行機の中では話が弾み、スチュワーデスは優しいし、御飯は美味しいしで快適な空の旅を満喫しました。到着した日は軽い観光があり、あの有名なゴールデンゲイト橋を見ることが出来ました。

２日目は参加登録の日ですが時間が丸１日とってあり、随分ゆとりある日程だなと思いましたが当日になってその理由がわかりました。AAOSへの参加はアメリカ国内外から17万人あるとことで午後１時に会場に着いたらなんと入り口の外まで人の列。不得意な英語で登録のやり方を案内係のおばさんに聞き、参加費の300＄とinstructional course lectureの100＄を収め、帰りに途に着いたのは午後４時過ぎでした。アメリカの学会のスケールに驚きながら仲良くなった北九州の香月先生とサンフランシスコ名物の路面電車に乗りfisherman's wharfを観光し遅い夕食をとって、次の日から始まる学会に軽い緊張を覚えながらベッドに入りました。

３～４日目、学会会場はMoscone convention centerで地下にはかなり広いスペースがあり世界各国の医療機器メーカーの展示や書籍の販売を行っておりました。私は主に小児整形に関する発表を聞きましたが英語が全く聞き取れず、抄録とスライドを見ながら大体の内容を把握するのがやっとで、英語力特に聞き取りの力が必要だなと痛感しました。

５日目、午前中に歩行分析とCPに関するLectureがあり論文の中でしか知らない高名な先生方の講義を聞くことができ大変勉強になりました。午後はAAOSに付随してある各学会のミーティングでしたので香月先生、若い平賀先生、中国からの留学生の李先生と４人で市内観光と近くの国定公園への観光に出かけました。

６日目、この日は日曜日で学会はお休み、参加者全員で１日かけてモントレー半島の観光バスツアーに出かけました。美しい海岸線、自然に生息するあざらしやラッコ、Carmelの街並み、Pebble Beach golf場、outlet shoping center等を見て歩きました。

７日目いよいよ帰国の日、出発前にあった不安

はどこかへ吹き飛び、もう少し滞在したいなとわがままなことを思いながらお土産の点検。午前中にサンフランシスコ国際空港へ。美しく延びる西海岸を眼下に一路帰国の途へ着きました。

今回のAAOS参加でアメリカへの認識が変わり、大きなものを得た気がします。この学会で学んだことを今後活用できるよう努力したいと思います。

最後に今回のZimmer travel fellow ship賞受賞に際し、御指導・御協力を頂きました田島直也教授ならびに関係各位に心から感謝申し上げます。

Fisherman's wharfより海をながめて

Moscone convention center学会場にて

医局旅行について

後　藤　啓　輔

今年の医局旅行は、幹事（松岡先生）の負傷や、直前場所の再考など一時は消滅しかかりましたが、教授を始め、皆様の御協力によって何とか無事予定日（9月13、14日）に行く事ができ、有り難うございました。

場所は、去年と同じ霧島ロイヤルホテルにお世話になり、毎年恒例の新入医局員の先生によるマッキントッシュを駆使したスライドの余興が行われました。しかし、今年は年々過激になりつつあった卑猥なスライドは無くなり、3例の発表とも微笑ましい笑いをとるもので1年生の努力の跡が見受けられました。中でも「ぼくのおとうさん」は、今まで誰も知らなかったprofの若き頃のスナップ写真を中心とした発表で、事前に知っていた我々は、profの顔色を窺いながら少し寒い思いをしました。結果は、好評で医局旅行19名だけで見納めるにはもったいないという事になり、皆様御存知のように還暦のお祝いの席で再度発表になった次第です。

また、初日に高千穂国際カントリークラブでゴルフコンペが行われました。その結果、今年入局した自称タイガーウッズことDr益山の優勝は予定通りでしたが、最近野球以外ご無沙汰していたprofが2位に入り、医局長業務に忙しい川越Drは3位、安藤Drは4位、スイス帰りで時差ボケのため帖佐講師は5位でした。

みなさん、おつかれさまでした。

大学診療部門紹介

「脊椎班」の現況

久　保　紳一郎

現在脊椎班（別称：せぼね班）は、整形外科40床中19床を用いて診療に当たっております。おかげさまで対象疾患は椎間板ヘルニアをはじめとする変性疾患から側彎・腫瘍・外傷までバラエティーに富んでおり我が班の良き伝統と思っております。現在の所、大学病院特有の諸々の事情により手術は週3例～4例といったところです。関連病院および同門の先生方から御紹介頂いた患者さんをなかなかbestなタイミングで治療できず慢性的に御迷惑をおかけいたしております。緊急を要する事の多い脊椎疾患を取り扱う以上あまり許されることではないのですが……。特に脊損・Metaの患者さんの術後の受入先がなかなか見つからずbedがふさがってしまうのが現状です。本県整形外科全体の問題としてなんらかの解決策が必要と思われますが、なにか御意見がございましたら教えてください。

ところで最近の脊椎分野におけるKey wordとしまして「Instrumentation Surgery」と「Minimally Invasive Surgery」が注目されております。前者に関しましては当科では御存じのように田島教授が「3-S」を考案され当分野の先鞭をつけられた歴史（1984年～）があります。現在では変性疾患に対するinstrument適応はかなり制限しておりますが、やはり変形矯正・早期離床などの利点から外傷・変形・腫瘍・RA等に対しましては前方・後方を問わずその恩恵に与っており、今後の一層発展すべきものと考えています。後者の「最小侵襲」の点では、Microscopic Lumbar Discectomyや脊髄腫瘍摘出時のみでなく、側彎症前方解離時のMicroscopic Thoracic DiscectomyやL.C.Sに対するMicroscopic Lumbar Fenestrationなど、顕微鏡の応用を拡大し明視野下のatraumaticな術式をめざしております。脊椎・脊髄手術は通常術者しか肝腎な所が見れない為、助手や学生は何が何だかわからないという秘技的な一面がありますが、Microscopic Surgeryはテレビモニターでみんなで見れる（観戦できる？）といった思わぬ効用もあります。一方、最小侵襲とはやや対極にあるかもしれませんが脊椎腫瘍に対しましては、教授の御英断で症例を吟味して「脊椎全摘術」を行っており、富田教授（金沢大）の開発された術式をもとに個々の症例に適した術式を模索中であります。以上、臨床面では田島教授の御指導の基に「繊細かつ大胆」をモットーになんとか一例一例積み重ねていっている段階でありますがいかんせん下々の我々は経験不足（＋勉強不足？）であり先輩方の御叱咤・御助言を頂ければ幸いです。

一方、最近の基礎的テーマとしましては田島教授のライフワークである後側法固定術の力学的解析をはじめ、側彎症に対する形状記憶合金の応用、PLLA／HA複合体の吸収と骨伝導、側彎症の成因に関する力学的解析その他に各々取り組んでおり成果が期待されます。

最後にいつも多方面で支えて頂いている同門の先生方に深く御礼を申し上げますと同時に今後とも宜しく御指導頂きますようお願い申し上げます。

下肢研修医の一週間

江　夏　　剛

下肢班で半年くらした研修医一年目の私が下肢班を例に一般的な一週間をふりかえり、研修医の仕事をその時々の感情も加えて紹介する。

下肢班は、帖佐講師を頭に関節の柏木グループスポーツの園田グループにわかれている。

現在、関節班は、Dr柏木、Dr松岡、Dr江夏の巨漢ラグビーライン。スポーツ班は、Dr園田、Dr栗原のさわやかサッカーライン＋濃いDr田島卓で構成されている。

下肢班の一週間はオペ室からはじまる。関節グループは、宇宙服に着換え、肺活量が人の何倍もあろうかという男共が、一定量の少ない酸素を奪いあう。ただでさえ、酸欠状態にあるのに、その夜、Dr帖佐の質問攻めをくらうとope後はぐったりしてしまう。

スポーツグループは、Dr園田の陽気な関節鏡さばきの横でモニターの前の研修医は夢の中へと誘導されている。こうして、月、木のope日はすぎていく。

火曜日は関節カンファで始まる。ここでもDr帖佐の質問攻めはつづく、研修医がヤマをはって質問にピシャリと答えたにしてもなお、答えられなくなるまで質問はつづく。ここでは答えない方が得策かもしれないと気付くのに半年もの月日を要してしまった。その後は外来となる。午後になると、オーベンは病棟にいないので、ほとんど研修医。一週間のうち、最もホッとする時間である。

水曜日は野球ではじまる。野球のあとの仕事はあまりにも爽快な気分で始めることができるため、病棟にいるメンバーをみると一目で野球に行ったか、どうかわかる。（もちろん、ぐったりして元気のない人が行った人、元気ハツラツ、睡眠十分で頑張っている人が行ってない人。）その後は、火曜日と同様に昼すぎまでの嵐の外来がつづく。木曜は月曜と同じに午後よりope前カンファがあり質問攻めにあっている。

金曜の朝は抄読会の時間、３人発表するのだが、研修医は誰が何を読んだのか、ほとんど覚えていない状態である。

またまた忙しい外来を終え、２時からはカンファレンス攻撃が開始される。その週のope后、入院の患者のプレゼンがあるので、その週忙しかった研修医は、金曜日は特に忙しい。それでも、終了後、ニシタチにくりだすことを考え、耐える。こうして、一週間を終える。土・日は、必ず病棟へ顔を出し、仕事をこなすのだが、プレッシャーのない仕事がこんなにも楽しいものかとつくづく思う。

こうした日々鍛錬の中、立派な整形外科を目指し、我々研修医は努力している。

上肢班について

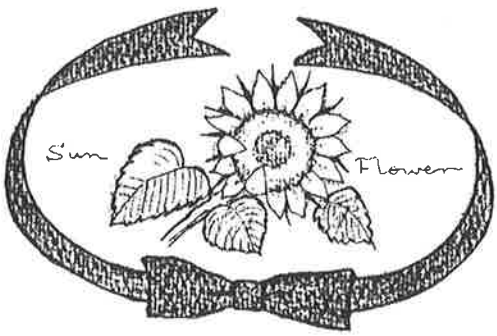
川　越　正　一

現在、大学の上肢診療グループの構成は、川越正一、蛯原啓文、安藤徹、結城祥一の４名です。入院ベットは４つで、手術は、他のグループの関係上、週２件の事が多く、さばききれない時は、他の診療班の動きを見ながら、１日に２つ遠慮しながら、行わせてもらってます。平均入院期間は、ベットの関係上、１週間程度で、術後早期から、関連病院や同門の先生にお世話になることが多く、この場を借りまして、御礼申し上げます。

手術件数は、平成９年１月から、10月13日まで56件です。この内訳をみますと、部位別では、肩甲帯・腕神経叢２件、肩関節５件、上腕１件、肘関節15件、前腕３件、手関節６件、手指16件、体幹１件、下肢４件、となっており、体幹と下肢の３例は、複合組織移植症例で、下肢の１例は多趾症症例でした。病態区分としましては、外傷関連（偽関節、拘縮、神経損傷、変形治癒含む）16例、拘縮５例、腫瘍９例、変性・退行性疾患５例、慢性関節リウマチ５例、先天性疾患４例、絞扼性神経障害10例、感染性疾患２例となっております。

このところ、鏡視下手術の適応症例を経験し、肩では、SLAP lesion、関節唇損傷、肘関節では関節遊離体、手関節ではTFCC損傷に対し、症例を選び挑んでいます。このため、４人で、Operative Arthroscopy（McGinty）の輪読会を開始した所です。

病院の体制から、緊急対応の必要な患者さんの受け入れが困難な状態で、関連病院及び同門会の先生方にはご迷惑をおかけしておりますが、今後とも、よろしくお願い申し上げます。



『側彎症外来』の現況について

作　　良彦

側彎症外来は、昭和54年11月、田島直也先生が、宮崎の地に着任して以来、先生のライフワークとして始まりました。宮崎医科大学の設立時の目標である「辺地医療の礎」として、先生がこれまで長崎市で勧めてこられた側彎診療体系をモチーフに本県独自の側彎症治療体系の整備がなされました。本県では、昭和56年に学童検診が開始され、その中で2次検診後の専門外来として『側彎症外来』が、始まり今日に至っています。

現在、毎週金曜日の午前に専門外来として、スポーツ外来と並行して教授特診で行っております。私は、3年前から同外来担当医として教授のお手伝いをさせて頂いております。学校検診にて異常を指摘され、近医にて加療後、脊椎変形の悪化を訴えに来院する学童期・思春期の患者さんが、大半を占めています。子供の将来のことを考え、過剰にご心配されている御両親の方々に、我々が知り得る予後の可能性を説明し、今後どの段階でどんな治療を必要としているかを説明して治療を進めています。画像的な判断に留まらず、子供の心理状態、家族環境を考えた上で、子供が納得した上で治療を進めるように心がけています。

これまでに側彎症外来でfollowされた患者は700名を超えています。平成8年度を例に挙げますと、新患は61例（女性47例、男性14例）であり、県全体から受診されております。内訳は特発性43例、先天性4例、症候性2例、姿勢異常4例、後彎3例、その他5例でありました。そのうち、紹介患者は、42例でした。手術症例は、特発性6例、先天性1例を施行いたしました（抜釘術を除く）。特発性側彎症の手術に際しては、CD法による後方矯正固定術を施行し、同時に横突起切離・鏡視下椎間板切除を併用して、矯正率の向上および美容上の改善を目標に頑張っております。

本年度より、再診を予約制にしておりますが、主に小・中学生が対象ですので、夏休み・春休みは、多数の来院となり患者さんにご迷惑をお掛けしております。側彎症診療は、脊椎班に所属し少人数で行っているのが現状です。関連病院および同門の先生方からのご紹介頂いた患者さんの状況を詳細に御報告したり、側彎症患者相談室等のケアーを行いたいのですが、なかなか現実化出来ずにいる毎日です。

関連病院および同門の先生方からご紹介頂いた患者さんに満足して頂けるよう努力していく所存です。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

当院スポーツ外来の現状と展望

園　田　典　生

現在スポーツ外来は毎週金曜午前中の偶数週を田島教授、奇数週を私が担当して行っています。毎週平均15人（新患、再診を含め）程度の患者数で、実業団選手からママさんバレーの選手までスポーツレベルは様々です。スポーツ活動が日常生活の一部になっている人が増えていることや、スポーツ医学が一般の方に理解されてきていることを反映しているのか、新患数は増加しております。そういう状況で時間的な制限があるため、サイベックスによる筋力測定や、ソルボセインを用いた足底板の処方などのほか、実業団選手などの定期的なメディカルチェックは指導者、選手と個人的に相談して、水曜午後に樋口先生、ＰＴの中村先生に手伝っていただき行っております。スポーツ医学の診療の理想は選手自身のほか指導者、スタッフとの信頼関係をつくりお互いに競技復帰までをめざすことであり、そのためには院内だけでなく実際に現場へ出向き、治療、トレーニング内容の検討、その効果判定が必要ですが、マンパワー不足もあり現在では困難な状況であります。それでも県北の実業団選手の治療を継続的に行えていることなどを考えると、教授をはじめスポーツ外来を前任されていた黒木先生の御尽力に感謝するとともに、開業されている先生で日常診療でお忙しい中でスポーツ医学の普及に努力されておられる姿を拝見し、今後さらなる精進が必要と考えております。また現在スポーツ医学を志し入局される先生が増えてきており、今後の発展のためにも諸先生方、御指導御協力よろしくお願いします。

新入医局員自己紹介（順不同）

氏　　名　池　尻　洋　史
生年月日　昭和47年7月10日生
出身高校　宮崎県立都城西高等学校
出身大学　山口大学
血 液 型　A　型

医師になった理由は高校3年の秋に、友達に医者はええぞと口説かれ、その当時まだ進路が決まっていなく、そうかなと思ったから。

入局して約半年たち、やっとなんとか病棟の仕事をこなせるようになってきました。入局当初は毎日毎日怒られてばかりで大変でしたが、今振り返ってみると、とてもルーズな性格の僕も人並みにできるようになり、とてもよかったと思います。勉強の方は日々の仕事にかまけてあまりやっておらず、あまり成長していない自分が情けなく少しでも勉強しなければならないとつくづく思う今日この頃です。野球に関しても、大きな期待で迎えられたのですが、医局対抗戦で僕のために負けてしまい反省しています。

まだまだ若輩者で、いろいろとこれからも御厄介になると思いますが、大きな気持ちで僕を受け止めて下さい。今後ともよろしくお願いいたします。

氏　　名　江　夏　　剛
生年月日　昭和44年5月31日生
出身高校　宮崎西高出身
出身大学　岐阜大学卒
血 液 型　A　型

宮崎に帰って1年半、入局してはや半年がすぎました。幼少時より柔道、大学時代ラグビーと体を動かすことが中心の生活でした。そのため捻挫、骨折などその度ごとにお世話になったのが、整形外科の先生方でした。そういう訳で大学時代から宮崎に帰ってこようと思っていたこととあいまって、自動的に宮崎医大整形外科にお世話になることとなりました。（高校時代からの友人である安藤・前田両先生が在籍していることが少し不安でありましたが）

入局してはや半年、下肢グループにて勉強させて頂いております。責任と誇り、そして不安の中で、毎日田島卓先生と汗をふきふき病棟を走りまわっております。体力には自信がありますので同門会の先生方、

これからもよろしくお願い致します。

氏　　名　河　野　　立
生年月日　昭和47年4月3日生
出身高校　宮崎南高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　O　型

研修医1年目のこうのりゅうと申します。

中学・高校時代は陸上部、大学ではバスケットボール部に所属していました。

整形外科を志したのは、高校時代、キャプテンとして、故障する選手の多さに頭を悩ませていたことがきっかけでした。

臨床実習が始まってからは、多くの科を回るごとに、卒業してすぐに専門領域へ進むことへの不安を感じ、進路を迷っていましたが、帖佐先生の説得により整形へ入局する決心ができました。

現在Spine groupで研修を開始して5ヶ月が過ぎようとしていますが、諸先生方の期待を裏切ってばかりで、まだまだ学生と変わらないような気がします。

これからまた、多くの先生方のもと御迷惑をおかけすると思いますが、何卒よろしくお願いします。

氏　　名　田　島　卓　也
生年月日　昭和47年11月23日生
出身高校　長崎県立長崎北高校出身
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　O　型

初めまして、H9．5月より宮崎医科大学整形外科に入局しました田島卓也です。入局する前は、長崎大学にいくか、九州大学にいくか、さらには長崎の研修指定病院（日赤原爆Hp）にいくか、母校に残るか迷いに迷って当科に決めました。

小学校1年のころより大学6年まで17年間ラグビー一筋に生きてきました。その中でスポーツ外傷・障害により大会に出られなくなった者、後輩にポジションを奪われた者、ラグビーが出来なくなった者などいろいろな人たちの背中を見てきました。医師志望者としての見方と、医師としての見方では若干異なるとは思いますが、スポーツの世界で生きてきた人間として少しでも助力できればと思っています。

現在修行中で、何をやりたいという段階ではありませんので、今後、御一緒することがあれば厳しく御

指導していただきたいと思っております。病院で、また西橋通りで見かけたらよろしくお願いします。

氏　　名　益　山　松　三
生年月日　昭和47年5月5日生
出身高校　県立都城泉ヶ丘高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　B　型

今春、宮崎医科大学を卒業し、整形外科に入局しました。入局してから4ヶ月が過ぎ、学生時代の医局のイメージと実際のものとが、ほとんど変わらないということを実感する毎日です。

中学1年から大学6年まで軟式テニス部に所属しておりましたが、高校2年のときに、大会3日前に半月板を損傷し、試合に出れなかったことが、整形外科医を目指すきっかけとなりました。

仕事（野球含）も遊びも一生懸命頑張って、患者さんからいいお医者さんと言われる様になりたいと思っておりますので、諸先生方、今後とも御指導の程宜しくお願いします。

氏　　名　結　城　祥　一
生年月日　昭和36年9月2日生
出身高校　鎮西学園真和高校
出身大学　宮崎医科大学
血 液 型　A　型

宮崎医科大学を卒業し、今年宮崎医科大学整形外科に入局しました結城祥一です。いろいろ、仕事を覚えていくうちやがて半年が過ぎようとしています。更に大きくなり、その面白さに見魅せられています。あとは、体力と時間をいかに自分のものにできるかという問題が残っているだけです。

好きで選んだ道です、悔いのない様にやっていきたいと思っています。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

教室同門の研究業績

（1996. 1月～12月まで）

◆著　　書

1　人工股関節手術における抗生剤入りセメントスペーサーの利用

帖佐　悦男

整形・災害外科　特集；体内材料を用いた手術のポイント

山内裕雄編集　1101―1105，金原出版，東京，1996.

2　女性の健康スポーツの特性と医学的注意，J. ゴルフ

田島　直也

女性のスポーツ医学　編集　越野立夫，武藤芳照，

定本朋子，313―315，文光堂，東京，1996.

3　運動器疾患　処方（骨粗鬆症他），私はこう処方する

田島　直也

最新版各科常用最新処方　監修　加地正郎　他，368―376，

大道学館出版部，福岡市，1996.

◆原　　著

1　RA頚椎のMRIと3D－CT

谷口　博信　　桑原　　茂　　田島　直也

脊椎・脊髄ジャーナル　9（1）17―24，1996.

2　脊髄造影にて完全ブロックを呈した腰椎変性疾患のMRIによる評価検討

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎

作　　良彦　　渡部　正一

日本脊椎外科学会雑誌，7（1）89，1996.

3　腰椎後側方固定術における前方要素の力学的検討―三次元有限要素法を用いて―

鳥取部光司　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男

日本脊椎外科学会雑誌，7（1）106，1996.

4　腰痛の疫学調査

柏木　輝行　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男

黒木　浩史　　渡部　正一

日本腰痛研究会誌，2（1）8―11，1996.

5　高校バスケットボール選手メディカルチェック報告書

黒木　俊政

'95みやざきスポーツ科学委員会研究報告書，6―13，1996.

6　TXH（MX－1）の中期成績

柏木　輝行　　田島　直也　　帖佐　悦男　　作　　良彦

園田　典生　　戸田　　勝　　黒木　龍二

整形外科と災害外科，45（1）14―16，1996.

7　高度腰椎辷り症の治療経験

久保紳一郎　　田島　直也　　平川　俊一　　田辺　龍樹

蛯原　啓文　　黒木　浩史

整形外科と災害外科，45（1）137―139，1996.

8　腰椎疾患における膀胱機能の術前後の比較検討

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　田辺　龍樹
久保紳一郎　　西　　昇平（※泌尿器科）　　山口　孝則※
長田　幸夫※

整形外科と災害外科，45（1）148―152，1996.

9　大腿骨頸部外側骨折に対するエンダー法の検討―膝部痛を中心に―

矢野　浩明　　長鶴　義隆　　黒田　　宏　　田島　直也

整形外科と災害外科，45（1）185―189，1996.

10　MX－1人工股関節術後のX線評価について

渡部　正一　　田島　直也　　帖佐　悦男　　柏木　輝行

第5回MX人工股関節研究会記録集，23―26，1996.

11　人工股関節感染に対する治療経験―抗生剤含有セメントスペーサー使用―

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　戸田　　勝

第5回MX人工股関節研究会記録集，23―26，1996.

12　遺残亜脱臼に対する補正手術の成績と適応

長鶴　義隆　　柳園賜一郎　　矢野　浩明　　田島　直也

日本整形外科学会雑誌，70（2）S304，1996.

13　腰椎後側方固定術の非固定椎間に及ぼす影響に関するX線学的検討―3年以上経過例について―

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
作　　良彦　　渡部　正一

日本整形外科学会雑誌，70（2）S371，1996.

14　上肢長管骨偽関節に対する創外固定法による治療経験

渡部　正一　　戸田　　勝　　黒木　龍二　　末永　　治
田島　直也

整形外科と災害外科，45（2）558―561，1996.

15　頚部脊髄症に対する術後成績の検討

田辺　龍樹　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
黒木　浩史

西日本脊椎研究会誌，22（2）193―197，1996.

16　スポーツ障害の予防における運動療法の意義―腰痛―

黒木　俊政　　田島　直也

理学診療，7（2）92―96，1996.

17　関節内注入液剤による滑膜・軟骨の変化

税所幸一郎　　桑原　　茂　　田島　直也

リウマチ科，16（2）144―149，1996.

18　RA頚椎病変によるADL障害

桑原　　茂　　山口政一朗　　田島　直也

リウマチ科，16（2）190―195，1996.

19　労働者における作業姿勢と腰痛―アンケート調査を中心に―

帖佐　悦男　　田島　直也

日本整形外科学会雑誌，70（3）S 547，1996.

20　RA下肢機能障害例の歩行解析

川越　正一　　田島　直也　　桑原　　茂　　帖佐　悦男

柏木　輝行　　浪平　辰州

日本整形外科学会雑誌，70（3）S 717，1996.

21　50歳代以降の股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術（SAO）の適応と成績

長鶴　義隆　　黒田　　宏　　矢野　浩明

整形外科，47（3）265―272，1996.

22　宮崎県における側弯症検診の課題

作　　良彦　　田島　直也

㈶宮崎県予防医学協会事業年報平成6年度1994．4～1995．3，

90―91，1996.

23　多剤無効RA例に対するミゾリビンの使用経験

園田　典生　　田島　直也　　桑原　　茂　　帖佐　悦男

濱中　秀昭

整形外科と災害外科，45（3）682―685，1996.

24　骨腫瘍のMRI診断の意義について

濱中　秀昭　　柏木　輝行　　帖佐　悦男　　桑原　　茂
田島　直也

整形外科と災害外科，45（3）895―900，1996.

25　腰椎手術後の臥床による大腿骨頚部骨塩量の変動―DXAを用いた検討―

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
井上　　篤

整形外科と災害外科，45（3）937―941，1996.

26　スポーツ選手の血液性状―スポーツ選手の血液性状の推移と競技力との関連―

黒木　俊政　　田島　直也

日常診療と血液，6（4）395―401，1996.

27　診断治療に難渋した肥厚性硬膜炎の1例

福元　洋一　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
田辺　龍樹　　黒木　浩史

整形外科と災害外科，45（4）1223―1227，1996.

28　骨関節感染症の治療経験―抗生剤含有骨セメント使用例―

谷畠　　満　　柏木　輝行　　帖佐　悦男　　桑原　茂
田島　直也

整形外科と災害外科，45（4）1251―1254，1996.

29　X－ray Findings of the Lumbar Spine of Judo Players

Junichi Higuchi　　Naoya Tajima　　Toshimasa Kuroki
Etsuo Chosa　　Norio Sonoda

Jpn. J. Orthop. Sports Med.，16（4）33―39，1996.

30　中学・高校生スポーツ選手の腰痛に対する運動療法の効果―第2報―

黒木　俊政　　田島　直也　　樋口　潤一　　中村真由美（リハビリ）
押川紘一郎

理学診療，7（4）272―275，1996.

31　アキレス腱に発生した明細胞肉腫の１例

大野　招伸(※病理)　浅田祐士郎※　佐藤　信也※
日野浦雄之※　作　良彦　田島　直也
住吉　昭信※
日本臨床細胞学会雑誌，35（５）500―503，1996.

32　側弯症の診かたとその予後

田島　直也
日本医師会雑誌，116（５）613―616，1996.

33　前足部急性循環障害に対する経口PGI_2製剤プロサイリン錠の使用経験

吉田好志郎　福田　健二　田島　直也　桑原　茂
新薬と臨床，45（５）947―950，1996.

34　リウマチ患者の脊椎圧迫骨折の予防と治療

桑原　茂　田島　直也
リウマチ科，15（５）448―454，1996.

35　筋のアメニティ学　日常生活動作と筋の負担　第１回「立つ」立ち上がり動作

田島　直也　川越　正一
AOL news 72 Aug.，1996.

36　膝前十字靭帯再建術後の筋力評価

中村真由美　黒木　俊政　田島　直也　樋口　潤一
九州スポーツ医・科学会誌，８　97―101，1996.

37　ラット膝関節メカノレセプターに対する関節不動化の影響

樋口　潤一　田島　直也　黒木　俊政　松元　征徳
井上　篤
日本整形外科学会雑誌，70（８）S1352，1996.

38　有限要素法による腰椎前方要素の力学的検討

鳥取部光司　田島　直也　平川　俊一　帖佐　悦男
日本整形外科学会雑誌，70（８）S1612，1996.

39　投球前後における肩関節MRIの変化

田辺　龍樹　　田島　直也　　帖佐　悦男　　川越　正一
樋口　潤一　　安藤　　徹　　小牧　一麿
日本整形外科学会雑誌，70（8）S1643，1996.

40　高校女子スポーツ選手の卒業後の追跡調査―10代から40才までの追跡

獅子目賢一郎　　田島　直也　　黒木　俊政　　樋口　潤一
臨床スポーツ医学，13（9）1041―1044，1996.

41　RA患者の骨粗鬆症について

園田　典生　　桑原　　茂　　田島　直也　　帖佐　悦男
柏木　輝行　　税所幸一郎　　谷口　博信
九州リウマチ，15　112―114，1996.

42　腰椎後側方固定術の有限要素法による応力解析

鳥取部光司　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男
柏木　輝行
日本臨床バイオメカニクス学会誌，17　87―90，1996.

43　椅座位からの立ち上がり動作の分析

川越　正一　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男
鳥取部光司　　柏木　輝行
日本臨床バイオメカニクス学会誌，17　183―186．1996.

44　スポーツと腰痛―その疫学治療適応とスポーツ活動への復帰―

桑原　　茂　　田島　直也
第7回腰痛シンポジウム　スポーツと腰痛　講演記録集，3―9，1996.

45　若・壮年期末期股関節症に対する外反骨切り術の適応と成績

長鶴　義隆　　柳園賜一郎　　矢野　浩明
Hip Joint，22　46―58，1996.

46　股関節におけるArthro―MRIについて―

柏木　輝行　　帖佐　悦男　　谷畠　　満　　園田　典生
田島　直也　　長鶴　義隆
Hip Joint，22　127―132，1996.

47　Periacetabular osteotomyのX線学的検討—股関節AP像とFalse Profile像を用いて—

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　園田　典生

谷畠　　満　　R. Ganz（*University of Berne）

K. Klaue*　　長鶴　義隆

Hip Joint，22　387—390，1996.

48　人工股関節感染に対する治療経験—抗生剤含有セメントスペーサー使用—

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　園田　典生

R. Ganz（University of Berne）　　長鶴　義隆

Hip Joint，22　467—470，1996.

49　ワンポイントアドバイス立方骨症候群について

獅子目賢一郎

臨床スポーツ医学，13（10）1132，1996.

50　スポーツ膝障害に対する体操療法—ストレッチングと筋力増強訓練—

園田　典生　　樋口　潤一　　田島　直也

関節外科　15（12）68—72，1996.

51　硬膜内髄外腫瘍15例の治療経験

後藤　啓輔　　徳久　俊雄（*県立宮崎病院）　　佐本　信彦*

小林　邦雄*　　高妻　雅和*　　松本　光司*

宮崎県医師会雑誌，20　33—38，1996.

52　Prophylactic epidural administration of fentany for the suppression of tourniquet pain

Taisuke Okamoto　　Tetsuro Mitsuse　　Teruyuki Kashiwagi

Eiji Iwane　　Youichiro Sakata　　Kazuyuki Masuda

Shinnya Ogata

Journal of Anesthesia，10　5—9，1996.

53　Instrumentsの選択にあたって望むこと

桑原　　茂

日本脊椎外科学会だより，11号，p 8，1996.

54　頸肩腕症候群に対する透視下腕神経叢ブロックの効果

佐藤　信博　　一万田正彦　　湯田　康正

ペインクリニック，17（2）271—274，1996.

◆症例報告

1　診断に難渋したアレルギー性亜敗血症の1例

山本惠太郎　森田　信二　金井　純次　田島　直也
桑原　茂　帖佐　悦男　柏木　輝行　岡田　光司
整形外科と災害外科，45（1）254―257，1996.

2　右手月状骨に発生した骨内ガングリオンの1例

末永　治　戸田　勝　黒木　龍二　渡部　正一
田島　直也　松本　宏一
整形外科と災害外科，45（1）318―321，1996.

3　当院で経験した手指MP関節ロッキングの3例

黒沢　治　戸田　勝　黒木　龍二　工藤　勝司
田島　直也
整形外科と災害外科，45（3）877―880，1996.

4　上腕骨および大腿骨骨幹部に発生したCalcifying Enchondoromaの2症例

田爪陽一朗　中村　誠司　川越　正一　作　良彦
田島　直也
整形外科と災害外科，45（3）890―894，1996.

5　人工膝関節置換術後に異所性骨化を生じた1例

税所幸一郎　吉田好志郎　吉松　成博
九州リウマチ，16　44―47，1996.

◆学会発表

1　宮崎県における成長期と成長期以後の野球傷害の比較―医療機関での診療実態から―

安藤　徹　田島　直也　帖佐　悦男　園田　典生
樋口　潤一　井上　篤
第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

2　宮崎県における成長期の野球傷害―選手および指導者側からの傷害状況―

井上　篤　田島　直也　帖佐　悦男　園田　典生
樋口　潤一　安藤　徹
第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

3　前十字靭帯損傷術後の筋力特性

中村真由美　田島　直也　樋口　潤一　黒木　俊政

第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

4　高校男子バスケットボール選手の体力特性

黒木　俊政　横山浩一郎　濱田　光信　田島　直也

樋口　潤一

第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

5　観血的治療を要したサッカー外傷

山本恵太郎　永田　高見　谷脇　功一　木屋　博昭

弓削　孝雄　塩川　徳　田口　学

第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

6　南国宮崎の高校アイスホッケーチームの光と影

獅子目賢一郎

第16回宮崎県スポーツ医学研究会，1996，1，宮崎.

7　職業性腰痛について―アンケートおよび検診結果より―

渡部　正一　田島　直也　帖差　悦男　柏木　輝行

黒木　浩史

第10回宮崎痛みの研究会，1996，1，宮崎.

8　片麻痺患者の骨塩量測定

黒木　俊政　横山浩一郎　濱田　光信　田島　直也

樋口　潤一

第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

9　腰椎後側方固定術の有限要素法による応力解析

山口政一朗　田島　直也　平川　俊一　帖佐　悦男

鳥取部光司　柏木　輝行

第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

10　股関節におけるArthro―MRIについて―

井上　篤　園田　典生　柏木　輝行　帖佐　悦男

田島　直也　長鶴　義隆　戸田　勝　工藤　勝司

黒沢　治

第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

11　診断・治療における3次元CTの有用性

山本恵太郎　永田　高見　谷脇　功一　木屋　博昭
弓削　孝雄　塩川　徳　田口　学
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

12　開放性踵骨骨折に伴う皮膚欠損に対する後脛骨動脈皮弁を用いた再建の小経験

蛯原　啓文　谷口　博信　長田　浩伸　税所幸一郎
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

13　Intramedullary Supracondylar Nailを用いた大腿骨遠位端骨折の治療経験

本部　浩一　谷口　博信　蛯原　啓文　長田　浩伸
野辺　達郎
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

14　強直性脊椎炎に合併した頚椎骨折の稀な一例

深野木由姫　田島　直也　平川　俊一　久保紳一郎
松元　征徳　黒木　浩史
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

15　大菱形骨骨折の一例

濱中　秀昭　戸田　勝　工藤　勝司　黒沢　治
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

16　橈骨遠位端骨折変形治癒により尺骨神経管症候群を呈した一症例

後藤　啓輔　田島　直也　中村　誠司　川越　正一
田爪陽一朗
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

17　鏡視下手根管開放術における治療経験

濱田　浩朗　高妻　雅和（*県立宮崎病院）　小林　邦雄*
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

18　乳児性皮膚骨増殖症の1症例

吉松　成博　吉田好志郎　税所幸一郎
第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

19　劇症型溶連菌感染の一症例

川添　浩史　　酒井　　健　　伊井　敏彦

第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

20　人工股関節感染に対する抗生剤含有セメントスペーサーの使用経験

安藤　　徹　　帖佐　悦男　　柏木　輝行　　園田　典生

田島　直也　　長鶴　義隆　　桑原　　茂

第31回宮崎整形外科懇話会，1996，2，宮崎.

21　超高齢者の大腿骨頚部骨折の観血的治療経験

田辺　龍樹　　小牧　一麿　　桑原　　茂　　川越　正一

帖佐　悦男　　園田　典生　　田島　直也　　谷口　博信

蛯原　啓文　　長田　浩伸

第7回宮崎救急医学会，1996，2，日南.

22　当科における開放骨折の治療経験

柳園賜一郎　　長鶴　義隆　　坂本　康典

第7回宮崎救急医学会，1996，2，日南.

23　MX－1人工股関節術後のX線評価

渡部　正一　　田島　直也　　帖佐　悦男　　柏木　輝行

第5回MX人工股関節研究会，1996，2，熊本.

24　人工股関節感染に対する治療経験—抗生剤含有セメントスペーサー使用—

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　戸田　　勝

第5回MX人工股関節研究会，1996，2，熊本.

25　スポーツと腰痛

桑原　　茂　　田島　直也

第7回腰痛シンポジウム，1996，3，東京.

26　画像による早期RAの診断—MRIを中心として—

桑原　　茂　　田島　直也　　税所幸一郎　　帖佐　悦男

柏木　輝行　　山口政一朗

第11回九州リウマチ学会，1996，3，那覇.

27　RA頚椎手術例の長期予後

桑原　茂　田島　直也　谷口　博信　山口政一朗

第11回九州リウマチ学会，1996，3，那覇.

28　多発性骨折を主訴として来院したJuvenile Osteoporosisの1例

片山　秀喜　伊賀　睦了　橋口　渡　日高　博之

上野　浩晶　帖佐　悦男　田島　直也　松倉　茂

第12回骨・カルシウム代謝研究会，1996，3，京都.

29　遺残亜脱臼に対する補正手術の成績と適応

長鶴　義隆　柳園賜一郎　矢野　浩明　田島　直也

第69回日本整形外科学会学術集会，1996，4，東京.

30　腰椎後側方固定術の非固定椎間に及ぼす影響に関するX線学的検討―3年以上経過例について―

黒木　浩史　田島　直也　平川　俊一　久保紳一郎

作　良彦　渡部　正一

第69回日本整形外科学会学術集会，1996，4，東京.

31　労働者における作業姿勢と腰痛―アンケート調査を中心に―

帖佐　悦男　田島　直也

第69回日本整形外科学会学術集会，1996，4，東京.

32　RA下肢機能障害例の歩行解析

川越　正一　田島　直也　桑原　茂　帖佐　悦男

柏木　輝行　浪平　辰州

第69回日本整形外科学会学術集会，1996，4，東京.

33　The Effects of Recombinant Human Cathepsin L on the Intervertebral Disc Proteoglycan

：Immunohistochemichal Assessment

S. Kubo　N. Tajima　K. Fukuda　H. Kuroki

The International Conference on Spinal Surgery1996,

1996，5，Taipei.

34　Value of MR Myelography in Lumbar Spinal Diseases

H. Kuroki　N. Tajima　S. Hirakawa　S. Kubo

R. Tabe　Y. Kakitsubata

The International Conference on Spinal Surgery1996,

1996，5，Taipei.

35 Finite element analysis of posterolateral fusion in Lumbar Spine

Naoya Tajima

The 6th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1996, 5, Kobe.

36 当科における胸椎部脊柱靭帯骨化症の治療成績

黒木 浩史　田島 直也　平川 俊一　久保紳一郎

作 良彦　渡部 正一

第45回西日本脊椎研究会, 1996, 5, 松山.

37 X－ray Fidings of Lumbar Spine in Judo Players

Junichi Higuchi　Naoya Tajima　Toshimasa Kuroki

Etsuo Chosa　Norio Sonoda

The 4th Japan－Korea Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine

1996, 5, Aomori.

38 Correlation of CK to Emotional Evaluation

Toshimasa Kuroki　Koichiro Yokoyama　Mitsunobu Hamada

Mihoko Terahara

The 4th Japan－Korea Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine

1996, 5, Aomori.

39 マウス消化管発生におけるHOX遺伝子群の関与

関本 朝久　藤本 昭二　吉信公美子　荒木 喜美

荒木 正健　田島 直也　山村 研一

第19回日本分子生物学会, 1996, 8, 札幌.

40 遺伝子トラップ法により単離されたプロモーターAyulの発現の解析

荒木 喜美　丹羽 仁央　奥山 啓司　関本 朝久

荒木 正健　森山 真子　所部 訓也　山村 研一

第28回日本発生生物学会, 1996, 6, 名古屋.

41 強直性脊椎炎に合併した稀な頸椎骨折の一例

深野木由姫　田島 直也　平川 俊一　作 良彦

松元 征徳　三股 恒夫

第91回西日本整形・災害外科学会, 1996, 6, 久留米.

42　精神障害者の外傷に対する整形外科的治療について

井上　篤　田島　直也　帖佐　悦男　柏木　輝行
園田　典生　三山　吉夫　重信　浩子
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

43　超音波骨量測定装置の二重X線吸収測定法（DXA）に対する有用性の検討

安藤　徹　田島　直也　帖佐　悦男　柏木　輝行
園田　典生　後藤　啓輔
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

44　当科におけるKienböckの治療経験

後藤　啓輔　中村　誠司　川越　正一　田島　直也
山口　一郎　戸田　勝
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

45　経皮的にIntramedullary Supracondylar Nailを用いた大腿骨遠位端骨折の治療経験

本部　浩一　谷口　博信　蛯原　啓文　長田　浩伸
野辺　達郎
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

46　変形性股関節症患者の歩行分析

田爪陽一朗　山口　和正　渡邊　信二　川越　正一
田島　直也
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

47　手術によるCP児の歩行の変化—床反力計などによる評価—

渡邊　信二　山口　和正　田爪陽一朗　川越　正一
田島　直也
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

48　Gamma Nailを用いた大腿骨頸部外側骨折の治療経験

長田　浩伸　谷口　博信　蛯原　啓文　本部　浩一
野辺　達郎
第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

49　Atlanto－axial rotatory fixationの3D－CTによる評価

松元　征徳　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎

黒木　浩史　　渡部　正一

第91回西日本整形・災害外科学会，1996，6，久留米.

50　Biomechanical study of the lumbar spondylolysis using a three

—dimensional finite element method and 3D－CT

Naoya Tajima　　Etsuo Chosa　　Koji Totoribe

The International Research Society of Spinal Deformities,

1996，6，Stockholm.

51　後方固定術後の慢性関節リウマチ頚椎病変のMRI所見

桑原　　茂　　田島　直也　　帖佐　悦男　　谷口　博信

柏木　輝行　　園田　典生

第25回日本脊椎外科学会，1996，6，名古屋.

52　脊髄造影にて完全ブロックを呈した腰椎変性疾患のMRIによる評価検討

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎

作　　良彦　　渡部　正一

第25回日本脊椎外科学会，1996，6，名古屋.

53　腰椎後側方固定術における前方要素の力学的検討—三次元有限要素法を用いて—

鳥取部光司　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男

第25回日本脊椎外科学会，1996，6，名古屋.

54　Recombinant human cathepsin Lによる化学的髄核融解術の検討

久保紳一郎　　田島　直也　　平川　俊一　　福田　健二

黒木　浩史

第25回日本脊椎外科学会，1996，6，名古屋.

55　Dynamic Motion Study in Chronic Low Back Pain Patients Using Videofluoroscopy

A. Okawa　　K. Shinomiya　　K. Komori　　H. Haro

Y. Arai　　H. Yoshida　　Y. Yokoyama　　O. Nakai

International Society for the Study of the Lumbar Spine

1996，6，Burlington Vermonto USA.

56　RA下肢機能障害例の歩行解析

川越　正一　　田島　直也　　帖佐　悦男　　柏木　輝行
桑原　　茂　　浪平　辰州

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

57　RAに対するTHAの短期成績

森田　信二　　黒田　　宏　　内田　秀穂

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

58　OPLLを伴った乾癬性関節炎の1例

税所幸一郎　　吉田好志郎　　吉松　成博

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

59　肺病変のある若年性RA例に対する手術適応について

山口政一朗　　桑原　　茂

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

60　高度な外反膝に対して行った人工膝関節置換術の2症例について

大平　　卓

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

61　当院で経験したリウマチ性多発筋痛症の検討

上田　　章　　田村　和夫　　近藤　誠司　　前原　東洋

第12回宮崎県リウマチ研究会，1996，6，宮崎.

62　High pressure injection injury後に生じた手掌部異物性肉芽腫の1例

野中　隆史　　中村　誠司　　川越　正一　　後藤　啓輔
田島　直也

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

63　膝蓋下脂肪体障害に対し鏡視下部分切除を行った1例

濱田　浩朗　　佐本　信彦　　高妻　雅和　　徳久　俊雄
小林　邦雄

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

64　PLLAピンを用いた距骨離断性骨軟骨炎の一例

吉田好志郎　　税所幸一郎　　吉松　成博

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

65　TKR術後の創部冷却による出血量低減効果

山口政一朗　桑原　茂

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

66　膝伸展障害を主訴とした単関節型JRAの2例

栗原　典近　田島　直也　帖佐　悦男　柏木　輝行

園田　典生　井上　篤

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

67　脊椎悪性腫瘍に対する椎骨全摘出術（Total en bloc spondylectomy）の経験

渡部　正一　田島　直也　平川　俊一　久保紳一郎

鳥取部光司　作　良彦　黒木　浩史　松元　征徳

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

68　大腿骨頚部外側骨折治療におけるγ-nailとchy-nailの比較検討について

黒沢　治　戸田　勝　工藤　勝司　濱中　秀昭

田島　直也

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

69　高齢者の大腿骨頚部外側骨折に対するdynamic hip screw systemの治療成績

中川　雅裕　前原　東洋　吉永　一春　菊野竜一郎

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

70　大腿骨頚部外側骨折に対するエンダー釘の治療

坂本　康典　長鶴　義隆　柳園賜一郎　飯干　明

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

71　高齢者の大腿骨頚部骨折―内側骨折と外側骨折を比較して―

中川　徳郎　永田　高見　谷脇　功一　木屋　博昭

弓削　孝雄　田口　学　山本惠太郎

第32回宮崎整形外科懇話会，1996，7，宮崎.

72　Three－Dimensional Finite Element Analysis of Posterolateral Lumbar Fusion

Koji Totoribe　Naoya Tajima　Shunichi Hirakawa

Etsuo Chosa

The 7th World Congress SIROT，1996，8，Amsterdam.

73 An Experimental Study on Primary Fixation of Hip Prosthesis

Teruyuki Kashiwagi　Etsuo Chosa　Naoya Tajima

The 7th World Congress SIROT, 1996, 8, Amsterdam.

74 Influence of Joint Immobilization to Mechanoreceptors in the Rats Cruciate Ligament

Junichi Higuchi　Naoya Tajima　Toshimasa Kuroki

Atsushi Inoue

The 7th World Congress SIROT, 1996, 8, Amsterdam.

75 当科における外傷性頚椎・頚髄損傷例の検討

渡部　正一　田島　直也　平川　俊一　帖佐　悦男

久保紳一郎　鳥取部光司　作　良彦　黒木　浩史

松元　征徳

第8回宮崎救急医学会, 1996, 8, 日向.

76 柔道選手の腰椎X線所見の経年的変化—腰椎分離症と変性変化について—

樋口　潤一　田島　直也　黒木　俊政　帖佐　悦男

園田　典生

第22回日本整形外科スポーツ医学会, 1996, 8, つくば.

77 遠位横止めをおこなわないGamma Nailによる大腿骨転子部の治療経験

谷口　博信　蛯原　啓文　長田　浩伸　本部　浩一

野辺　達郎

第22回日本骨折治療学会, 1996, 8, 横浜.

78 Intramedullary Supracondylar Nailを用いた高齢者の大腿骨遠位端骨折の治療経験

谷口　博信　蛯原　啓文　長田　浩伸　本部　浩一

野辺　達郎

第22回日本骨折治療学会, 1996, 8, 横浜.

79 当科における外来自己血貯血について

川野　彰裕　帖佐　悦男　柏木　輝行　園田　典生

安藤　徹　田島　直也

第3回宮崎自己血輸血懇話会, 1996, 9, 宮崎.

80　ラット膝関節メカノレセプターに対する関節不動化の影響

樋口　潤一　　田島　直也　　黒木　俊政　　松元　征徳

井上　　篤

第11回日本整形外科学会基礎学術集会，1996，10，鹿児島.

81　有限要素法による腰椎前方要素の力学的検討

鳥取部光司　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男

第11回日本整形外科学会基礎学術集会，1996，10，鹿児島.

82　投球前後における肩関節MRIの変化

田辺　龍樹　　田島　直也　　帖佐　悦男　　川越　正一

樋口　潤一　　安藤　　徹　　小牧　一麿

第11回日本整形外科学会基礎学術集会，1996，10，鹿児島.

83　一次性股関節症に関するレントゲン学的検討

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　園田　典生

栗原　典近　　長鶴　義隆

第23回日本股関節学会，1996，10，東京.

84　人工骨頭置換術後の初期固定に関する実験的研究

柏木　輝行　　田島　直也　　帖佐　悦男

第23回日本股関節学会，1996，10，東京.

85　股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術（SAO）の長期成績

長鶴　義隆　　柳園賜一郎　　坂本　康典　　飯干　　明

第23回日本股関節学会，1996，10，東京.

86　股関節におけるArthro MRIについて

柏木　輝行　　帖佐　悦男　　川野　彰裕　　園田　典生

田島　直也　　長鶴　義隆

第23回日本股関節学会，1996，10，東京.

87　股関節単純X線Faux profil（False profile）像について

帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　園田　典生

川野　彰裕　　長鶴　義隆

第23回日本股関節学会，1996，10，東京.

88　股関節症の有限要素法による応力解析

帖佐　悦男　　田島　直也　　鳥取部光司　　柏木　輝行
川越　正一
第23回日本臨床バイオメカニクス学会，1996，11，東京.

89　シンポジウム「バイオメカニクスにおけるComputer Simulationの応用」
脊椎におけるFEMの応用（Finite Element Method）
鳥取部光司　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男
川越　正一　　柏木　輝行
第23回日本臨床バイオメカニクス学会，1996，11，東京.

90　人工骨頭置換術後の初期固定に関する実験的研究

柏木　輝行　　田島　直也　　帖佐　悦男　　川越　正一
鳥取部光司
第23回日本臨床バイオメカニクス学会，1996，11，東京.

91　The effects of recombinant human cathepsin L on the interver tebral disc proteoglycan
：immunohistochemichal assessment
S. Kubo　　N. Tajima　　K. Fukuda　　H. Kuroki
The 3rd Combined Meeting Spinal & Paediatric sections of
W. P. O. A.，1996，11，Kochi.

92　Value of MR myelography in lumbar spinal diseases
H. Kuroki　　N. Tajima　　S. Hirakawa
S.Kubo　　R.Tabe　　Y.Kakitsubata
The 3rd Combined Meeting Spinal & Paediatric sections of
W. P. O. A.，1996，11，Kochi.

93　コメディカル　シンポジウム；各科領域における肥満度への対応―整形外科の立場から―
帖佐　悦男　　田島　直也　　柏木　輝行　　園田　典生
第17回日本肥満学会，1996，11，別府.

94　先天性側弯の変形進行の危険因子について

作　　良彦　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
黒木　浩史　　渡部　正一
第30回日本側弯症学会，1996，11，宮崎.

95　実業団柔道選手の手指関節傷害についての検討

園田　典生　　田島　直也　　帖佐　悦男　　樋口　潤一
安藤　　徹　　栗原　典近
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

96　脊椎悪性腫瘍に対する椎骨全摘出術（Total en bloc spondylectomy）の経験

渡部　正一　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
鳥取部光司　　作　　良彦　　黒木　浩史　　松元　征徳
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

97　投球前後における肩関節MRIの変化

安藤　　徹　　帖佐　悦男　　川越　正一　　園田　典生
樋口　潤一　　田島　直也　　小牧　一麿　　田辺　龍樹
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

98　DEXAによる踵骨と腰椎，大腿骨頸部骨塩量の比較検討

後藤　啓輔　　矢野　浩明　　田島　直也　　帖佐　悦男
川越　正一　　園田　典生　　野中　隆史
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

99　当科における外来自己血貯血（1200g）について

川野　彰裕　　帖佐　悦男　　柏木　輝行　　園田　典生
田島　直也
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

100　HATCP coatingの人工骨頭の短期成績について

深野木由姫　　帖佐　悦男　　柏木　輝行　　田島　直也
戸田　　勝
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

101　前腕部Fibromatosisにより深指屈筋腱拘縮をきたした一例

井上　　篤　　中村　誠司　　川越　正一　　野中　隆史
田島　直也　　前原　東洋　　吉永　一春
第92回西日本整形・災害外科学会，1996，11，宜野湾.

102　超高齢者の大腿骨頚部骨折の観血的治療経験

田辺　龍樹　　小牧　一磨　　川越　正一　　帖佐　悦男
柏木　輝行　　園田　典生　　田島　直也
第92回西日本整形・災害学会，1996，11，宜野湾.

103　仙骨全摘術におけるinstrumentationの経験

黒木　浩史　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
鳥取部光司　　作　　良彦　　松元　征徳　　渡部　正一
第46回西日本脊椎研究会，1996，11，宜野湾.

104　当科におけるペルテス病の治療経験

柳園賜一郎　　長鶴　義隆　　坂本　康典　　飯干　　明
第7回日本小児整形外科学会，1996，11，横浜.

105　当院看護従事者および事務系従事者における腰痛について

柏木　輝行　　田島　直也　　平川　俊一　　帖佐　悦男
久保紳一郎　　黒木　浩史　　松元　征徳　　渡部　正一
第4回日本腰痛研究会，1996，12，栃木.

106　宮崎県における青少年期サッカーによるスポーツ障害についてのアンケート調査からの考察
（指導者側からの回答について）

園田　典生　　田島　直也　　帖佐　悦男　　樋口　潤一
野中　隆史　　河原　勝博
第9回九州スポーツ医・科学会，1996，12，福岡.

107　宮崎県における成長期サッカー選手の外傷・障害調査

樋口　潤一　　田島　直也　　園田　典生　　野中　隆史
河原　勝博
第9回九州スポーツ医・科学会，1996，12，福岡.

108　Atlanto－axial rotatory fixationの3D－CTによる評価

前田　和徳　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
松元　征徳　　黒木　浩史　　渡部　正一
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

109　仙骨軟骨肉腫に対する仙骨全摘術・再建術の経験

石田　康行　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
鳥取部光司　　作　　良彦　　黒木　浩史　　有住　裕一
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

110　特発性側弯症に対するCD法の治療成績

有住　裕一　　田島　直也　　平川　俊一　　久保紳一郎
鳥取部光司　　作　　良彦　　黒木　浩史　　石田　康行
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

111　当科におけるTKA（AMK）の短期成績

河原　勝博　　帖佐　悦男　　柏木　輝行　　園田　典生
田島　直也　　桑原　　茂
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

112　両側同時TKAと片側毎のTKAの比較

金井　純次　　桑原　　茂　　山口政一朗
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

113　股関節の手術におけるModified Trans Gluteal Approach

栗原　典近　　帖佐　悦男　　柏木　輝行　　園田　典生
川野　彰裕　　田島　直也
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

114　術後回収式自己血輸血の有用性と安全性について―CBC Ⅱの使用経験―

飯干　　明　　長鶴　義隆　　柳園賜一郎　　坂本　康典
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

115　上腕骨近位に発生した骨梗塞の一例

野中　隆史　　中村　誠司　　川越　正一　　井上　　篤
田島　直也
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

116　橈骨遠位端骨折に対するintra-focal pinning法（Kapandji）の有用性

永吉　洋次　　岩切　清文
第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎．

117　偽関節手術に対する一考案—偽関節部横断骨切り術(Transverse Osteotmy for Pseudoarthrosis：TOP)—

渡辺　　雄

第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

118　当院における腰椎椎間板ヘルニアの治療について

山本恵太郎　　小林　邦雄　　徳久　俊雄　　高妻　雅和

佐本　信彦　　国東　芳顕　　芳田　辰也　　寺本　全男

第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

119　腰椎椎間板ヘルニアに対するMicroscopic discectomyの経験

久保紳一郎　　田島　直也　　平川　俊一　　鳥取部光司

作　　良彦　　黒木　浩史　　松元　征徳　　渡部　正一

第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

120　経皮的椎間板ヘルニア摘出術の経験

池之上邦彦

第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

121　外側型腰椎椎間板ヘルニアの手術症例の検討

中川　雅裕　　前原　東洋　　吉永　一春　　菊野竜一郎

第33回宮崎整形外科懇話会，1996，12，宮崎.

◆特 別 講 演

1　健康管理概論（健康の概念，健康管理，成人病とその予防，メディカルチェック）

田島　直也

平成7年度宮崎県健康運動実践指導者養成講習会，1996，1，宮崎.

2　救急処置（心肺機能蘇生，内科系救急処置，外科系救急処置）

樋口　潤一

平成7年度宮崎県健康運動実践指導者養成講習会，1996，1，宮崎.

3　スポーツ障害と対策—内科的および整形外科的問題点について—

黒木　俊政

平成7年度厚生省健康運動指導者育成研修会，1996，1，宮崎

4　脊椎のスポーツ傷害

田島　直也

福井県整形外科医会教育研修会，1996，1，福井.

5　サッカーで起こる外傷・障害とその処置

樋口　潤一

C級指導者養成講習会，1996，1，宮崎

6　スポーツ傷害とその対策

田島　直也

平成7年度宮崎県スポーツ指導者研修会，1996，2，宮崎.

7　中高年のスポーツ障害と対策

田島　直也

熊本臨床整形医会，1996，2，熊本.

8　骨粗鬆症の最近の話題から

田島　直也

宮崎県医師会県民健康セミナー，1996，2，宮崎.

9　スポーツ医学—運動療法の基本と実際—

黒木　俊政

平成7年度レクリエーション・コーディネーター研修会，1996，2．宮崎.

10　レクリエーション・スポーツ活動中の障害事故と救急処置

樋口　潤一

平成7年度レクリエーション・コーディネーター講習会，1996，2，宮崎.

11　成長期スポーツ障害と問題点

田島　直也

第14回城南骨・関節フォーラム，1996，3，東京.

12　側弯症の診かたとその予後

田島　直也

日本短波放送（福岡KBCメディア），1996，4．

13　骨粗鬆症について—最近の話題から—

田島　直也

延岡医学会学術講演会，1996，7，宮崎.

14　リウマチ治療の将来

桑原　　茂

日本リウマチ友の会，1996，7，宮崎.

15　腰椎後側方固定術について

田島　直也

第8回徳大脊椎外科カンファランス，1996，8，徳島.

16　骨粗鬆症の基礎と臨床

桑原　　茂

日向医師会講演会，1996，9，宮崎.

17　骨粗鬆症について

帖佐　悦男

西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会，1996，9，宮崎.

18　RAの治療

桑原　　茂

日南保健所講演会，1996，10，宮崎.

19　成長期のスポーツ障害

田島　直也

第9回長崎県央整形外科懇話会，1996，11，長崎.

20　骨粗鬆症の予防

帖佐　悦男

宮崎市寝たきり予防教室，1996，10，宮崎.

21　慢性関節リウマチの基礎と臨床

桑原　　茂

厚生省生活援助局講演会，1996，11，東京.

22　慢性関節リウマチの臨床

桑原　　茂

第2回西都市・西児湯内科医会講演会，1996，11，宮崎.

23　レクリエーション・スポーツ活動中の障害事故と救急処置

樋口　潤一

平成8年度レクリエーション・コーディネーター講習会，1996，12，宮崎.

24　骨折り損にならないために

帖佐　悦男

宮崎郡清武町保健教育講習会，1996，12，宮崎.

過去の同門会誌に未掲載の分です。（文頭の番号はその年度に継続してつけています。）

◆原著及び論文

（1995年分）

42　MRI findings of rheumatoid spondylitis

S. KUWAHARA　N. TAJIMA　T. SUGANO

Rev. Chir. Orthop. 81；Suppl II：245, 1995

編　集　後　記

同門会誌も、９号となりました。10年をひとつの区切りと考えますと、どうにか形が出来上がってきたように思われます。次号を記念号と位置づけてみたいと思います。

今回は田島教授の御還暦のお祝いをメインテーマといたしましたが、全国整形外科医局野球大会準優勝と言う素晴らしい結果が加わっています。同門会から贈られた真っ赤なウインドブレーカーをきっちりと着こなされた田島教授の巻頭写真は、医局員へ対する熱い情熱を示している様です。同門会も医局の活躍あってのものですから、心からのお祝いを込めまして、カラーといたしました。

毎年新入会員を迎え、同門会会員数も142名となっています。会員相互の親睦を深めるため、８号より名簿に写真を入れました。今回は更に、利用しやすい様、別冊といたしました。

皆様からのご投稿も回を追うごとに、幅広いものになっています。河野会長の農業への思い入れも、趣味の範囲を超えた楽しさが伝わって来ます。また新しく開業された平川、福田両先生の文章からは、大学と違った地域医療への奮戦ぶりが忍ばれます。同門会誌は、大学医局・関連病院・開業医と、３者を結ぶパイプラインのようなものです。現代のインターネットにはとても及びませんが、お互いに協力し合えば、大きな力となります。その一助となりますよう皆様のご協力をよろしくお願い致します。出来るだけ多くの会員の皆様からの御投稿をおまちしております。

編集長　押川紘一郎

宮崎医大整形外科学教室

同　門　会　誌

発　行　日　　平成９年１２月
発　行　者　　宮崎医科大学整形外科学教室同門会
編集責任者　　押　川　紘一郎
印　刷　者　　㈾　愛　文　社　印　刷　所